

小学生・中高生の生活実態に関するアンケート調査について

令和4年3月 仙台市

(1) 調査目的

本市におけるヤングケアラーの存在の傾向を把握するとともに、ケアの状況や困りごと、支援ニーズ等を把握することを目的に実施した。

(2) 調査対象

仙台市立学校に通う、小学5年生、中学2年生(中等教育学校2年生を含む)、高校2年生(中等教育学校5年生を含む)の児童生徒 約17,900人

(3) 調査方法

- ・ 各学校を通じて児童生徒に調査票を配布
- ・ 回答方法は、同封した返信用封筒による郵送か、自宅のPCやスマートフォンから回答できるWeb環境(調査票の二次元コードから案内)からの回答のいずれかを児童生徒が選択
- ・ 無記名式のアンケート調査で、内容は令和2年度に実施された国の調査に準ずる

(4) 調査期間

令和3年12月上旬 ~ 令和4年1月12日(水)

(5) 回収状況

区分	調査対象数	有効回答数	回収率
小学5年生	8,528	3,435	40.3%
中学2年生	8,375	2,954	35.3%
高校2年生	934	173	18.5%
計	17,837	6,562	36.8%

※調査対象者数は令和3年5月1日時点の児童生徒数による

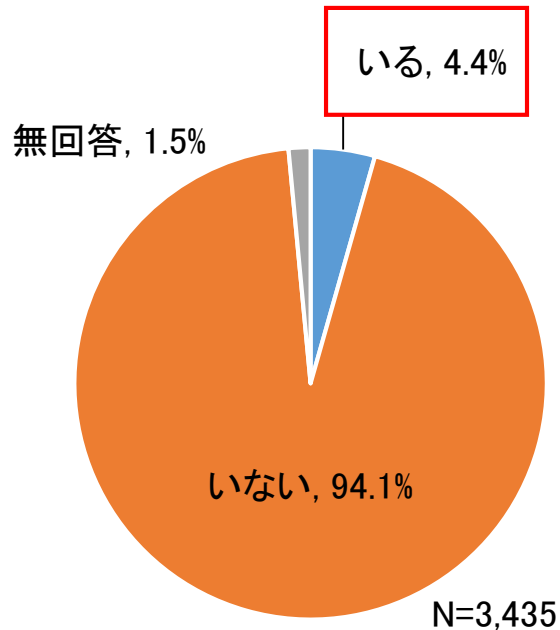
※中学2年生は中等教育学校2年生を含み、高校2年生には中等教育学校5年生を含む(以下同じ)

【結果】 ①世話をしている家族の有無

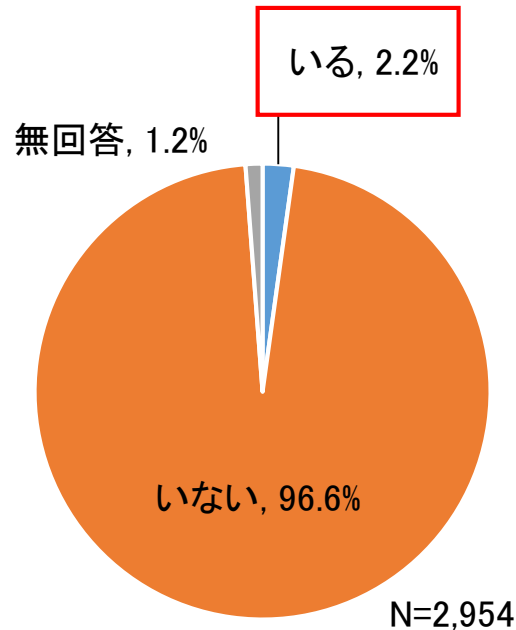
○ 小学5年生、中学2年生、高校2年生に対し、世話をしている家族の有無について質問。

○ 世話をしている家族が「いる」と回答したのは、小学5年生で4.4%、中学2年生で2.2%、高校2年生で1.2%。

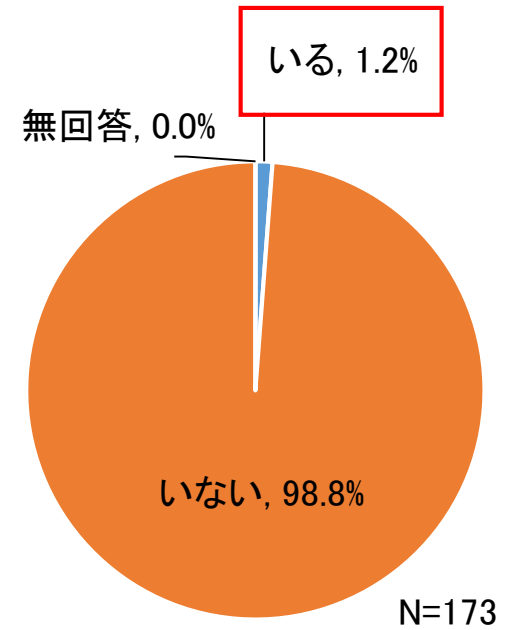
【小学5年生】



【中学2年生】



【高校2年生】

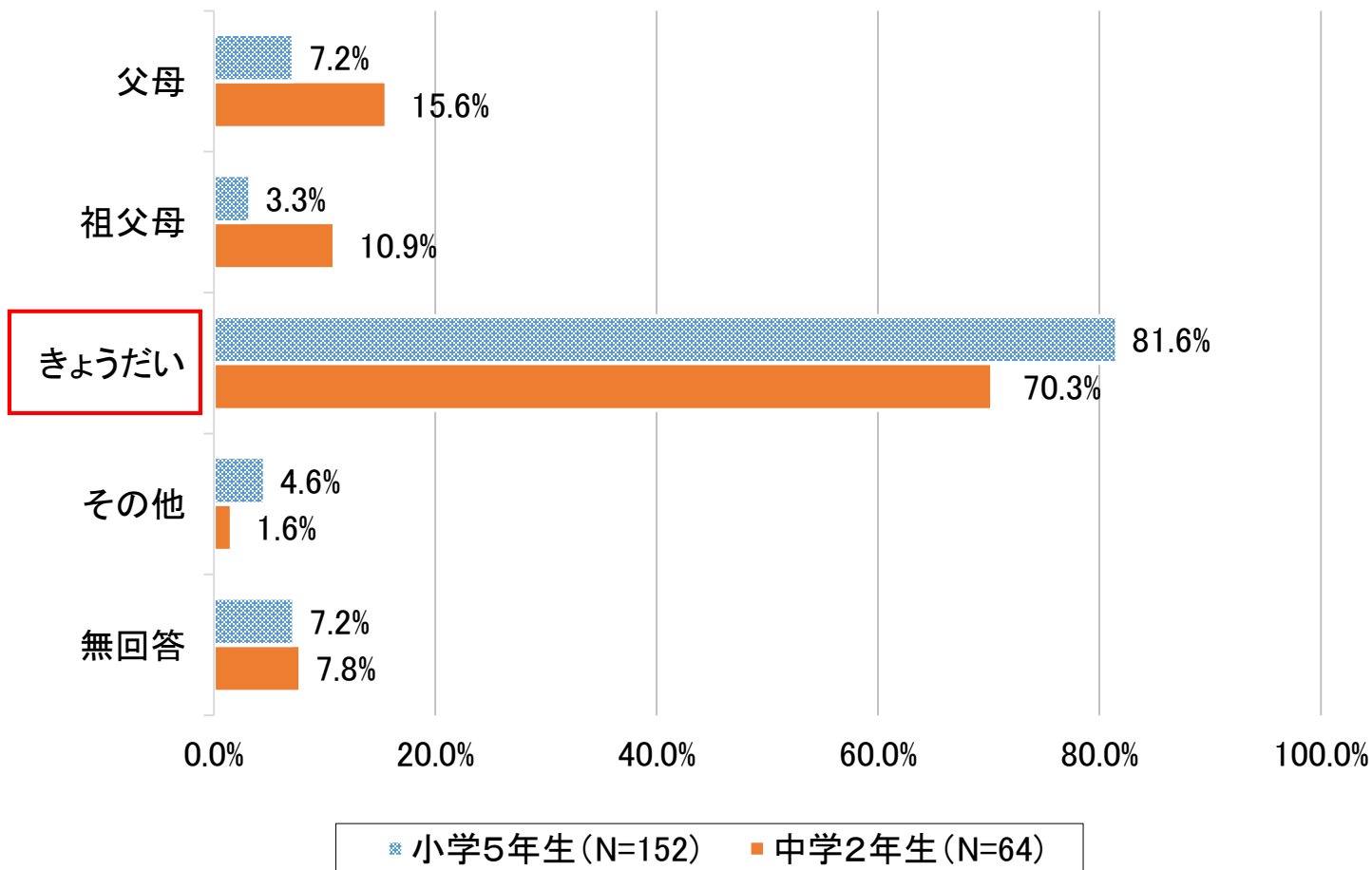


【結果】 ②世話を必要としている家族

○ 世話をしている家族が「いる」と回答した児童生徒に、世話を必要としている家族について質問（複数回答）。

○ 小学5年生、中学2年生とも「きょうだい」が最も高くなっている。

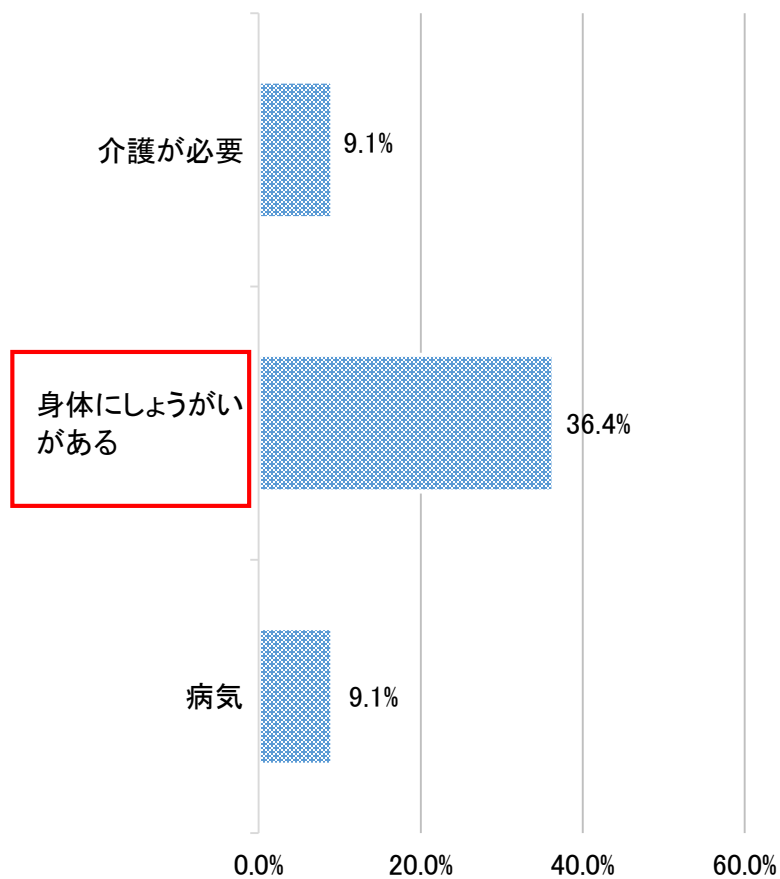
※延人数で集計した速報値から集計方法を改めた。



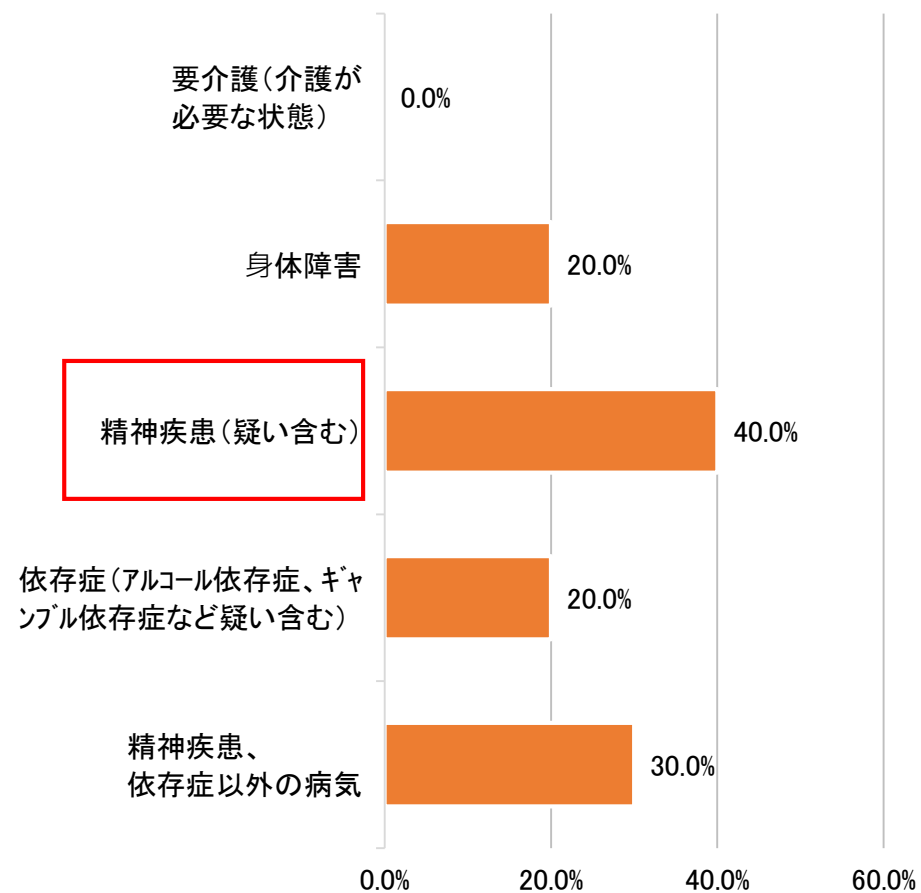
【結果】 ③世話の状況 「父母」

- 世話を必要としている家族として「父母」と回答した児童生徒に、父母の状況を質問(複数回答)。
- 小学5年生は「身体にしょうがいがある」、中学2年生は「精神疾患(疑い含む)」が高くなっている。

【小学5年生(N=11)】



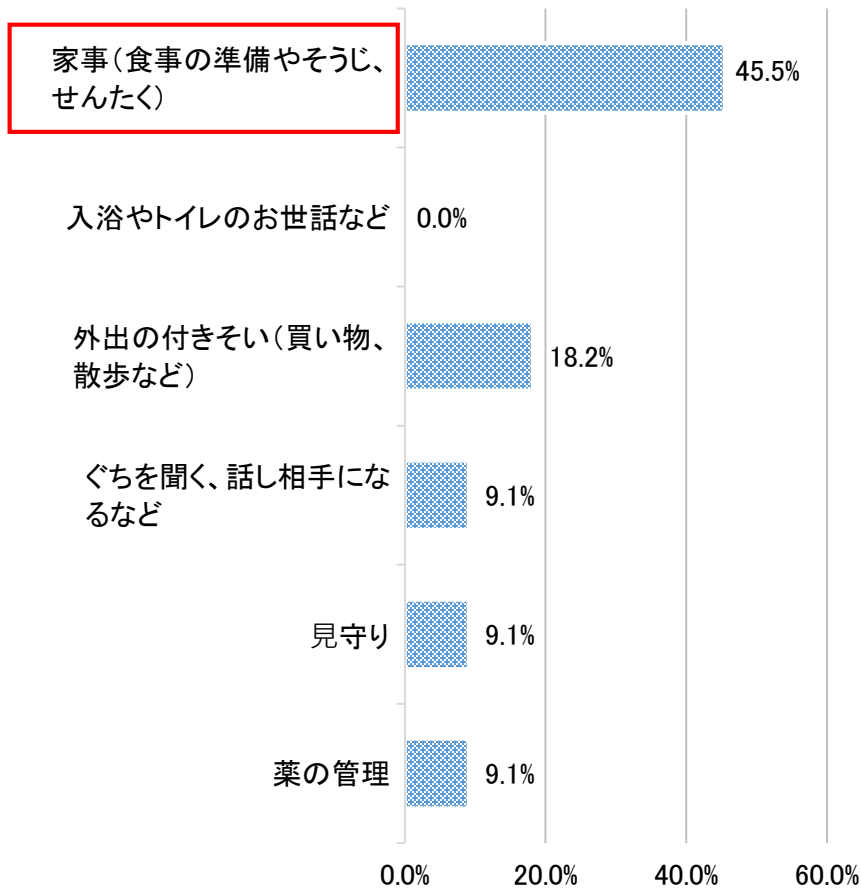
【中学2年生(N=10)】



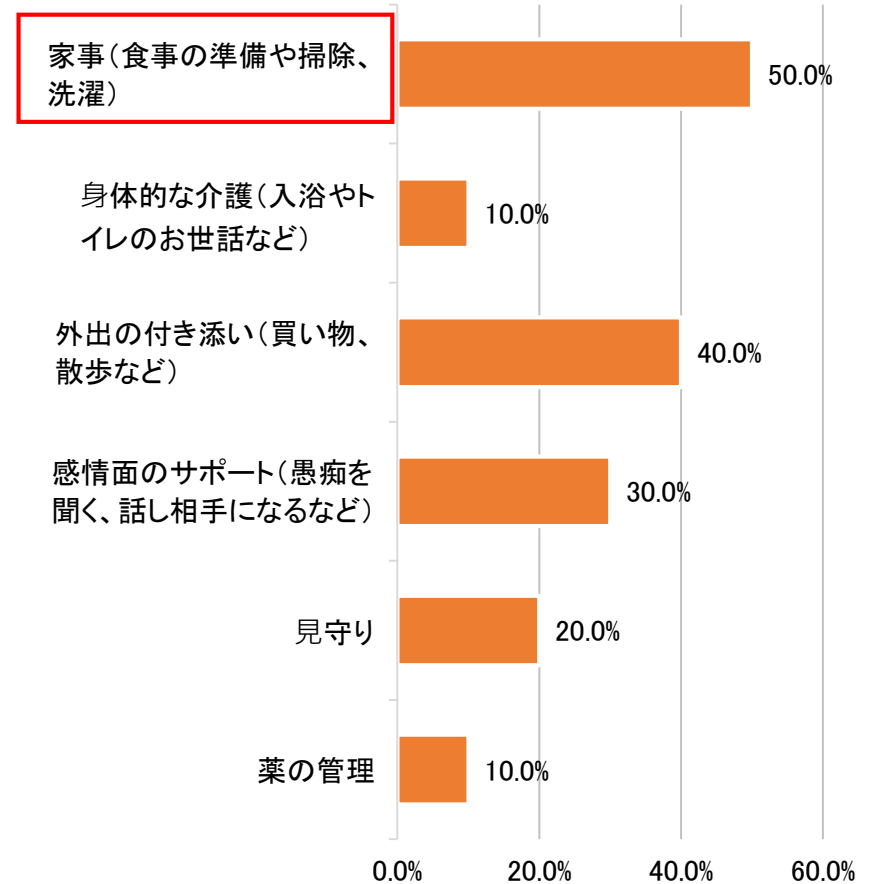
【結果】 ④世話の内容 「父母」

- 世話を必要としている家族として「父母」と回答した児童生徒に、世話の内容を質問(複数回答)。
- 小学5年生、中学2年生とも「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」が最も高くなっている。

【小学5年生(N=11)】



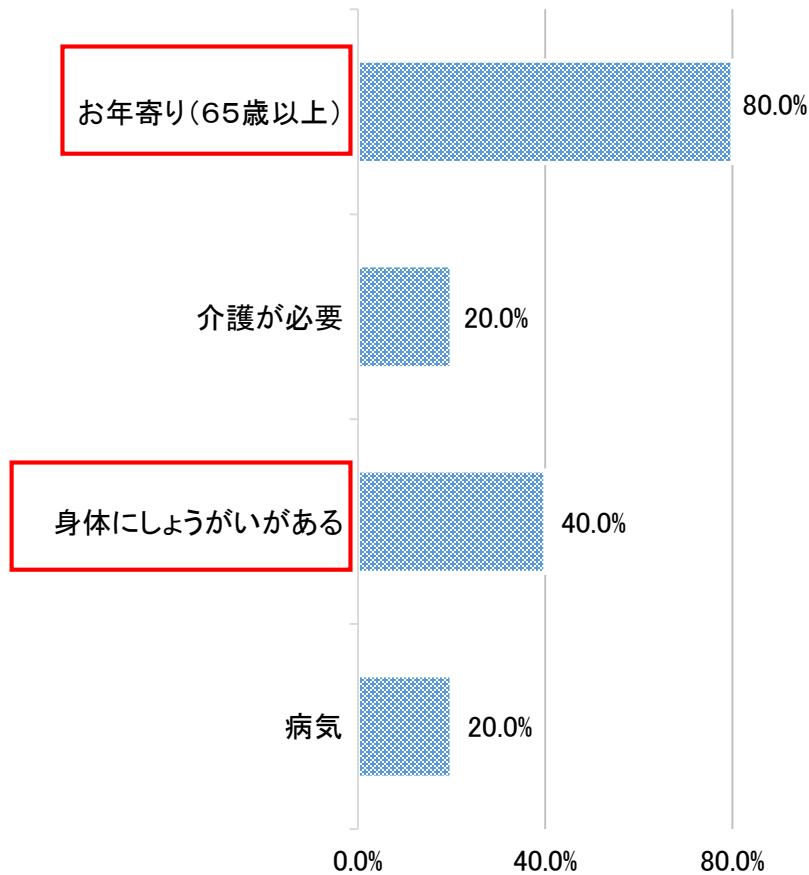
【中学2年生(N=10)】



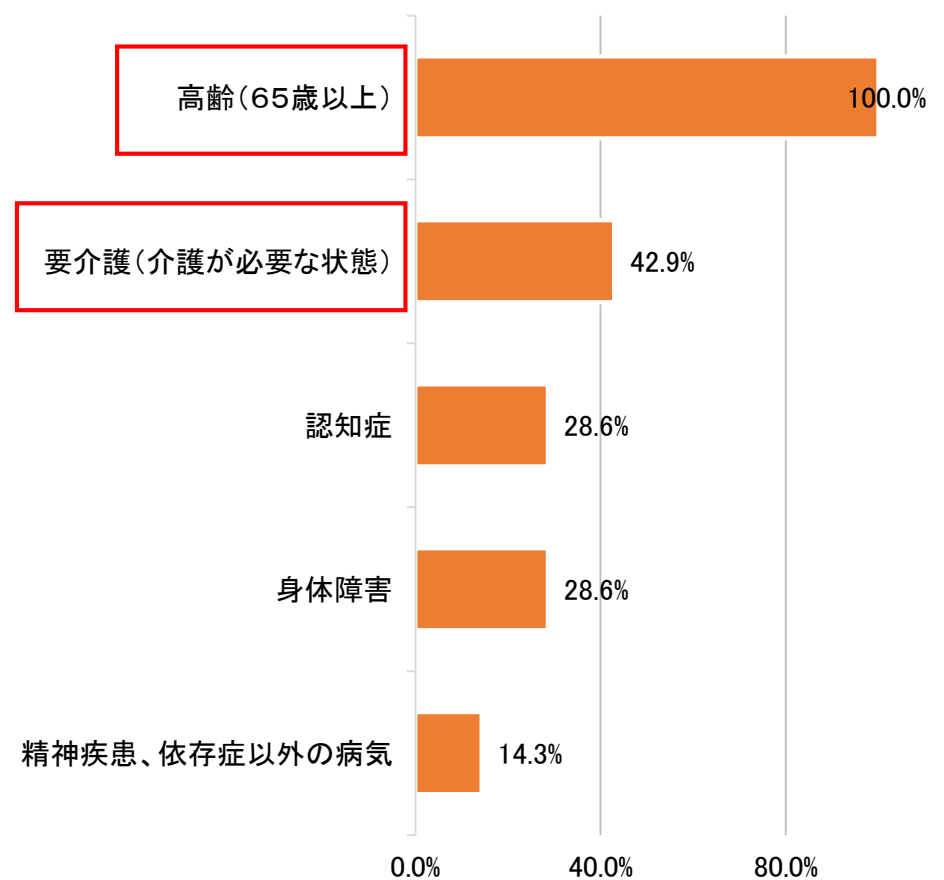
【結果】 ⑤世話の状況 「祖父母」

- 世話を必要としている家族として「祖父母」と回答した児童生徒に、祖父母の状況を質問(複数回答)。
- 小学5年生、中学2年生とも「お年寄り・高齢(65歳以上)」が最も高く、次いで、小学5年生では「身体にしょうがいがある」、中学2年生では「要介護(介護が必要な状態)」が高くなっている。

【小学5年生(N=5)】



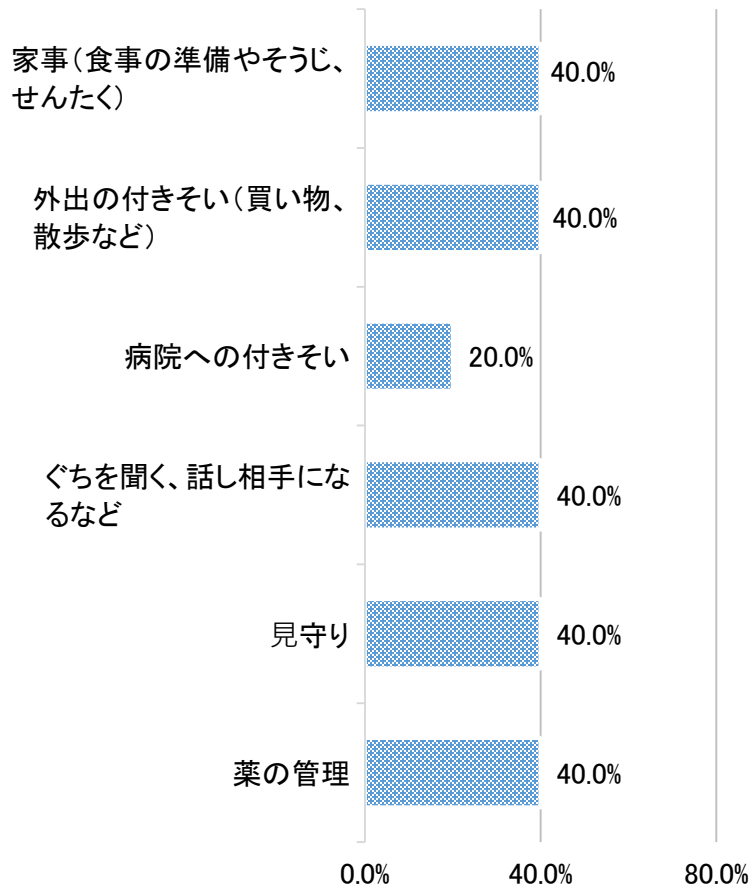
【中学2年生(N=7)】



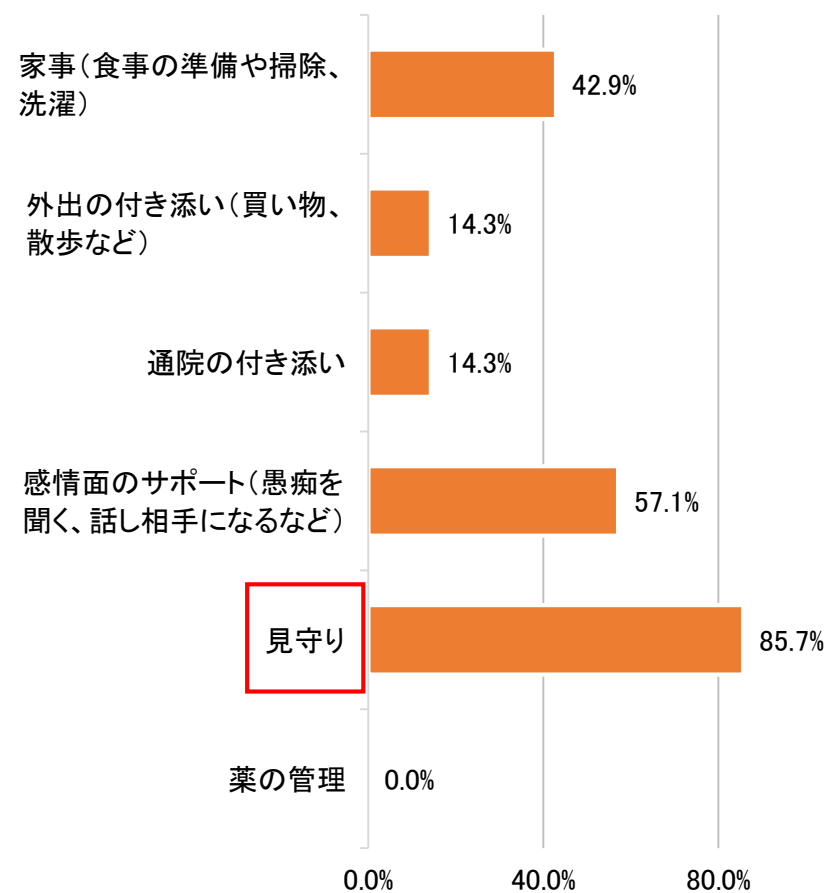
【結果】 ⑥世話の内容 「祖父母」

- 世話を必要としている家族として「祖父母」と回答した児童生徒に、世話の内容を質問(複数回答)。
- 中学2年生では「見守り」が最も高くなっている。

【小学5年生(N=5)】



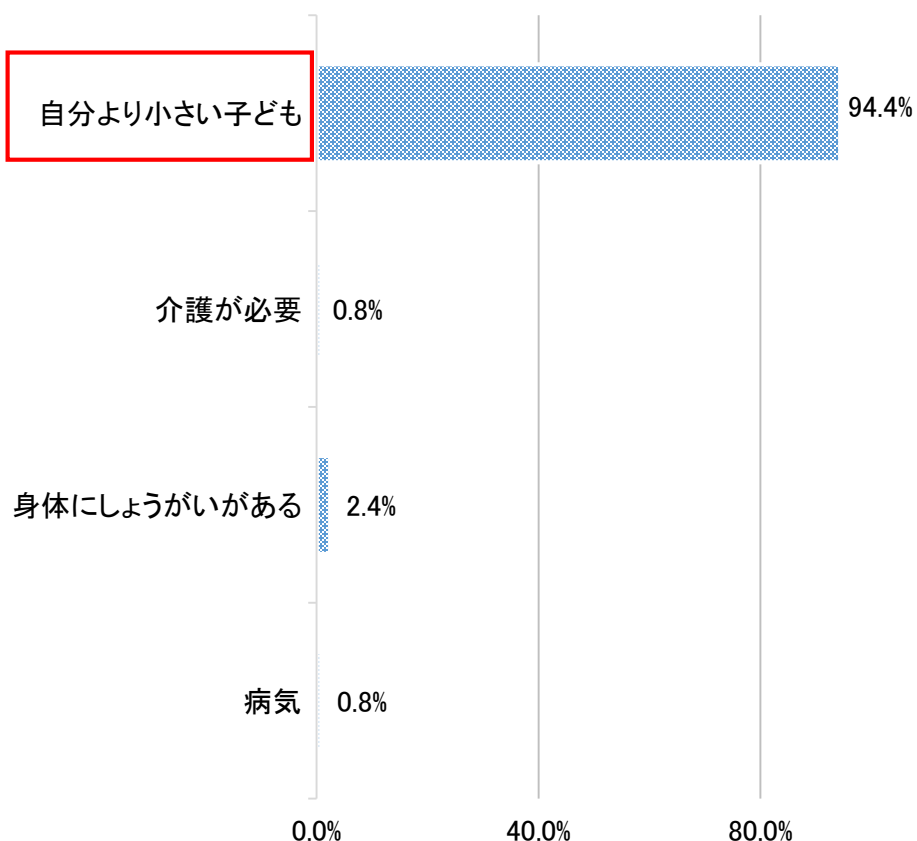
【中学2年生(N=7)】



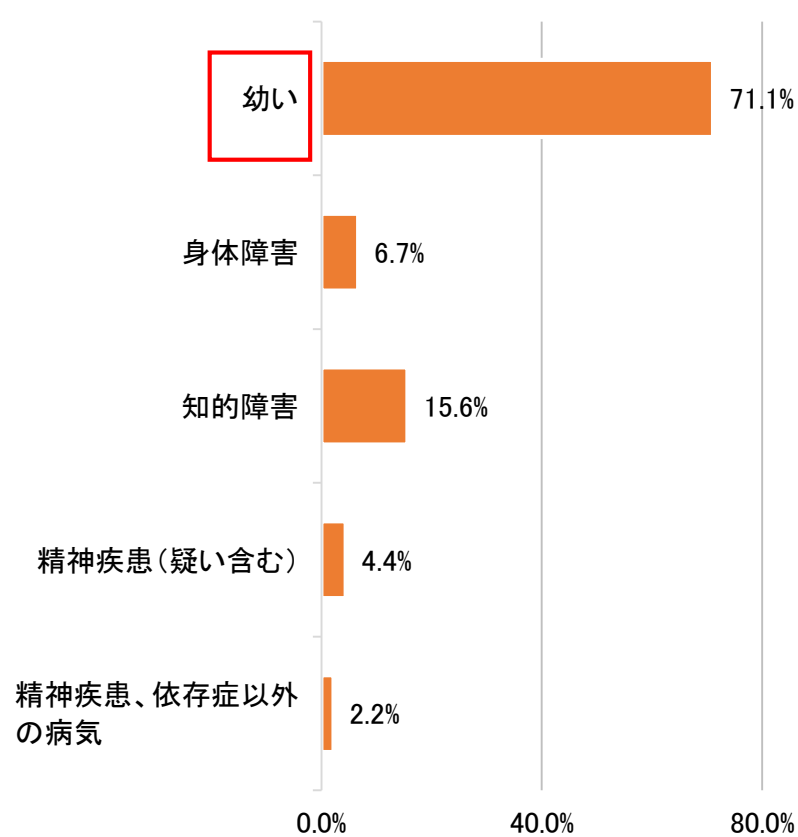
【結果】 ⑦世話の状況 「きょうだい」

- 世話を必要としている家族として「きょうだい」と回答した児童生徒に、きょうだいの状況を質問（複数回答）。
- 小学5年生、中学2年生とも「自分より小さい子ども・幼い」が最も高くなっている。

【小学5年生 (N=124)】



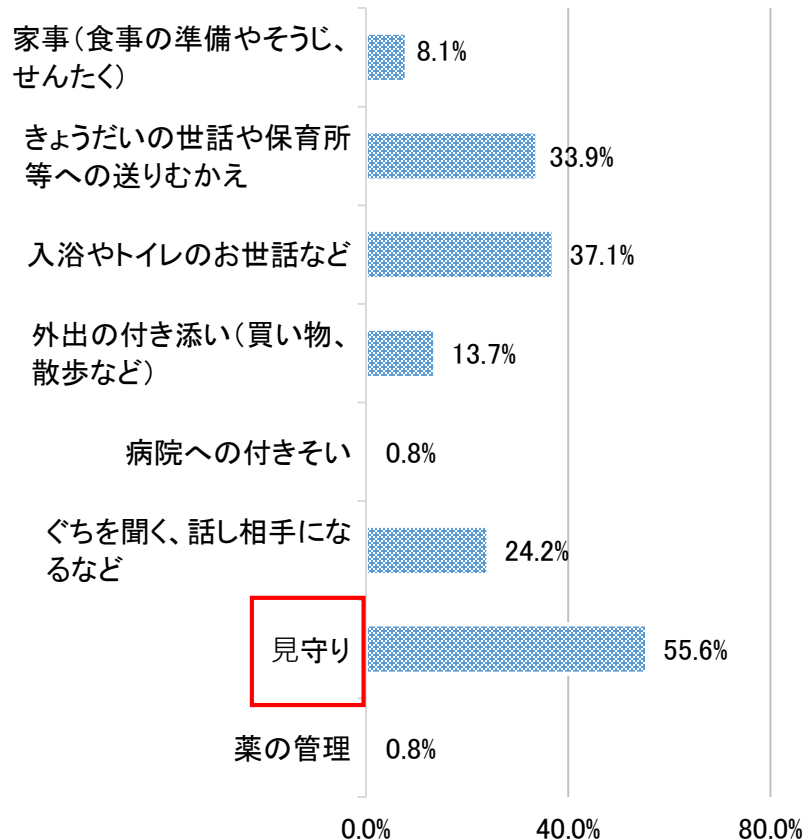
【中学2年生 (N=45)】



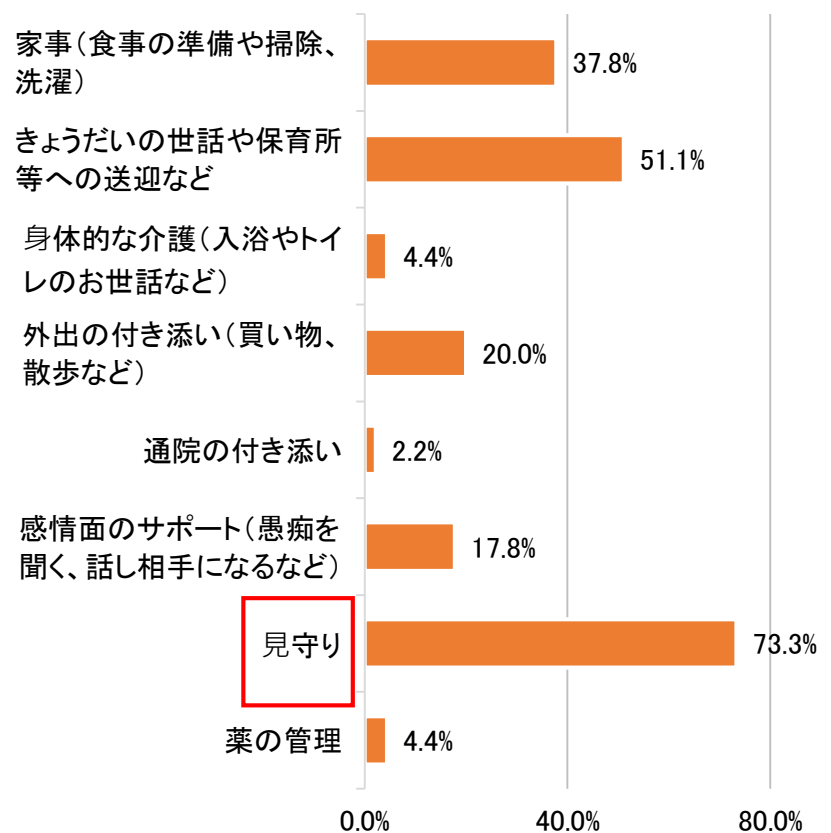
【結果】 ⑧世話の内容 「きょうだい」

- 世話を必要としている家族として「きょうだい」と回答した児童生徒に、世話の内容を質問(複数回答)。
- 小学5年生、中学2年生とも「見守り」が最も高くなっている。

【小学5年生(N=124)】



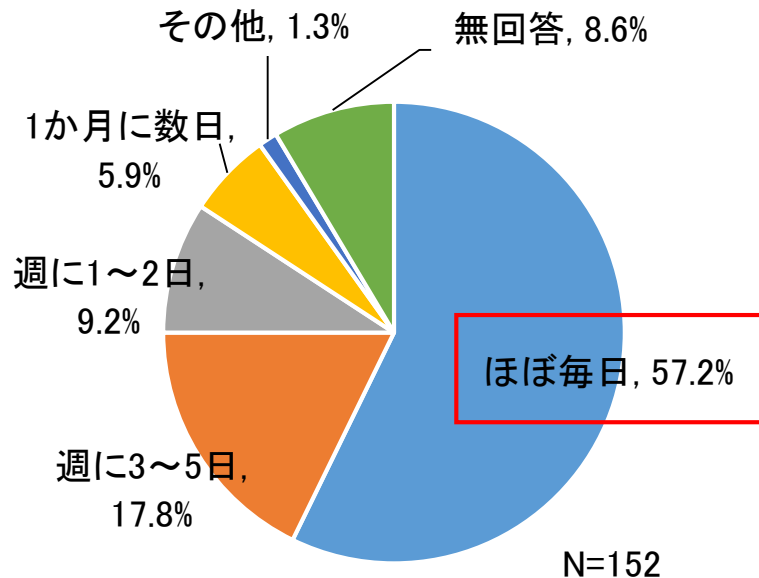
【中学2年生(N=45)】



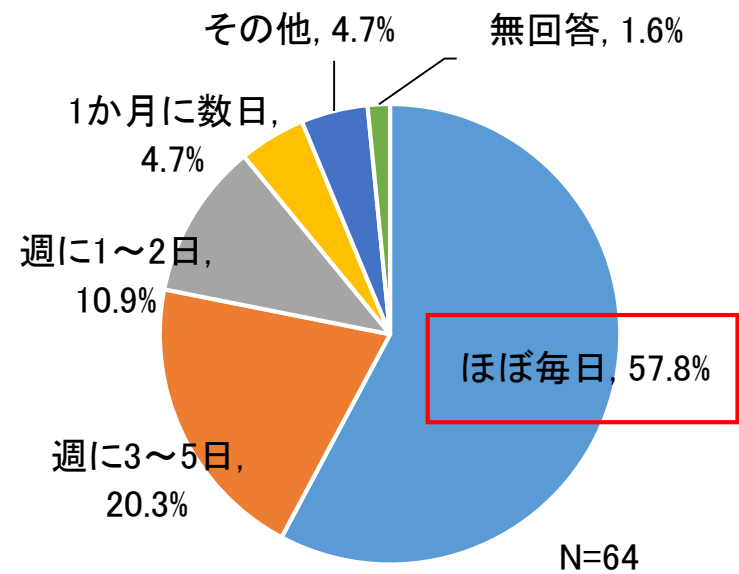
【結果】 ⑨世話をしている頻度

- 世話をしている家族が「いる」と回答した児童生徒に、その頻度について質問。
- 小学5年生、中学2年生とも「ほぼ毎日」が最も高くなっている。

【小学5年生】



【中学2年生】

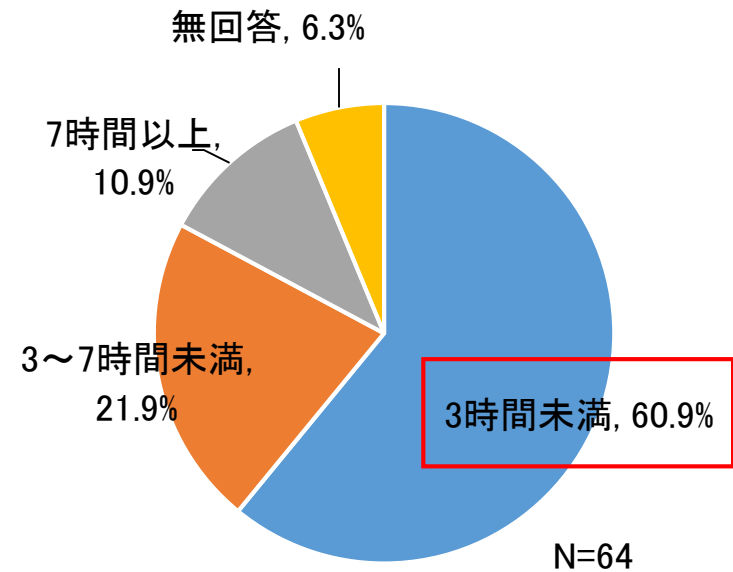
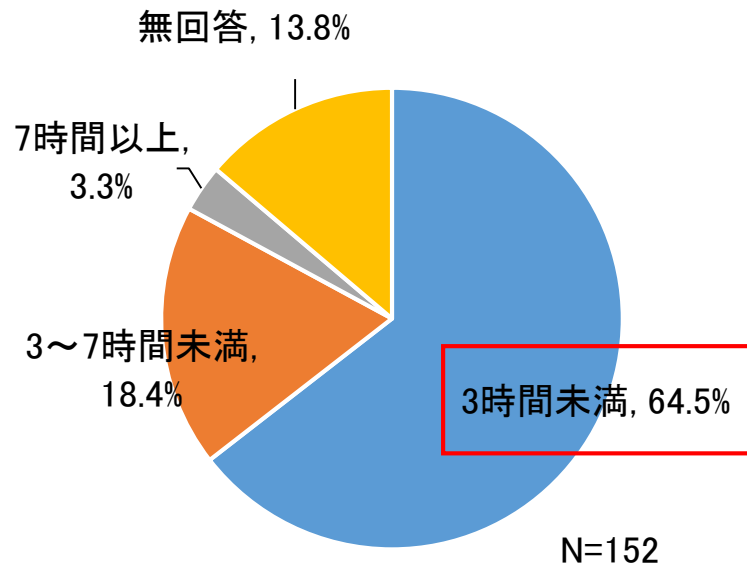


【結果】 ⑩世話をしている時間

- 世話をしている家族が「いる」と回答した児童生徒に、平日1日あたりの世話を費やす時間について質問。
- 小学5年生、中学2年生とも「3時間未満」が最も高くなっている。

【小学5年生】

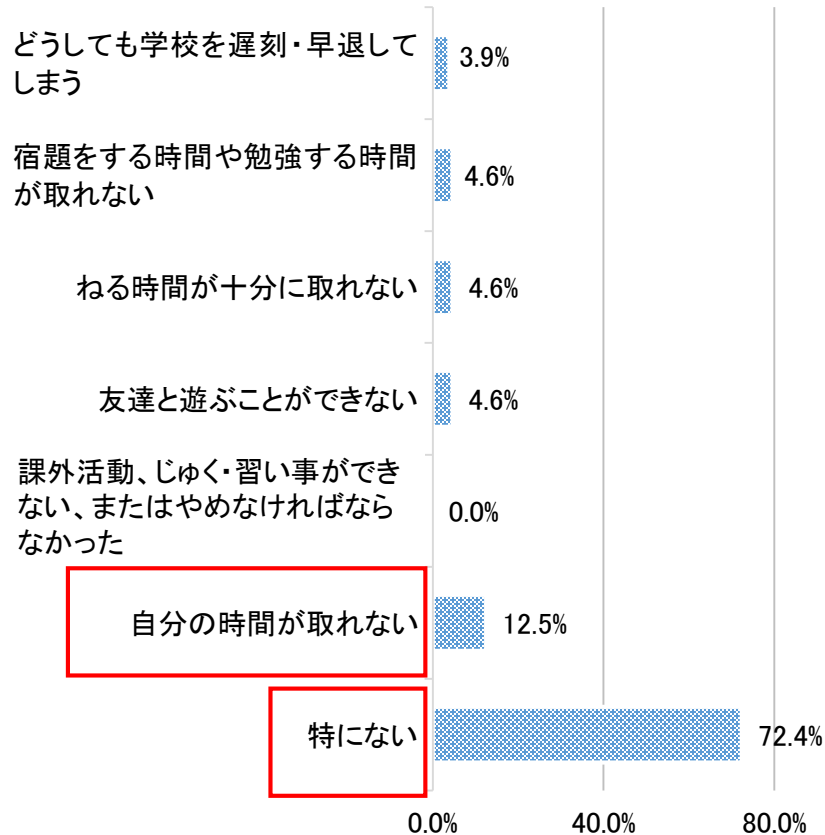
【中学2年生】



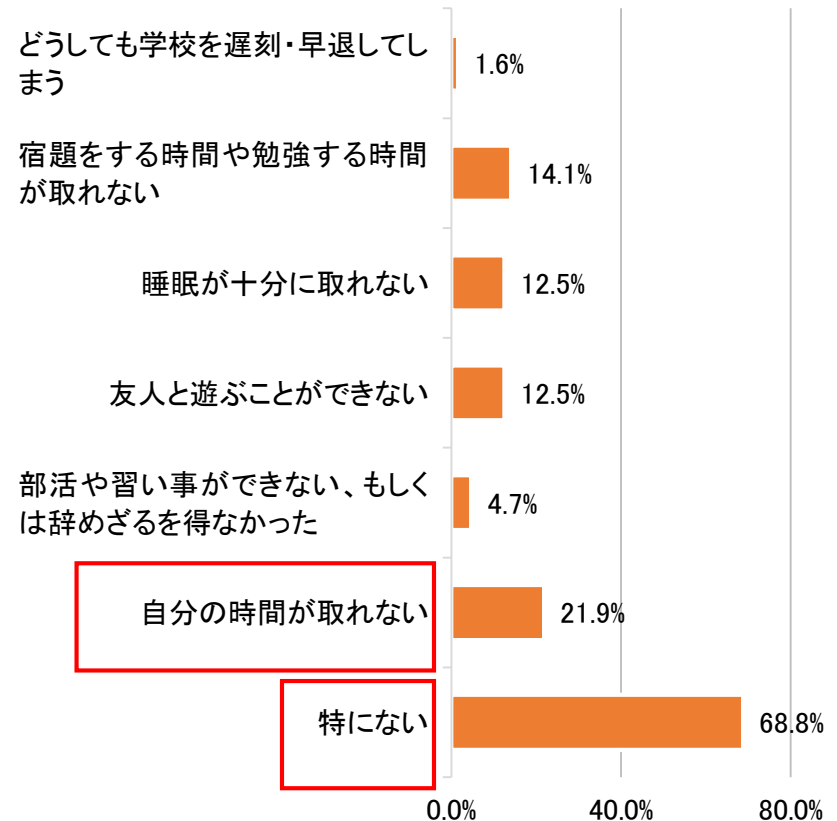
【結果】 ⑪世話をしているため、できていないこと

- 世話をしている家族が「いる」と回答した児童生徒に、世話をしているために、やりたいけれどできていないことについて質問(複数回答)。
- 小学5年生、中学2年生とも「特にない」が最も高く、次いで、「自分の時間が取れない」が高くなっている。

【小学5年生(N=152)】



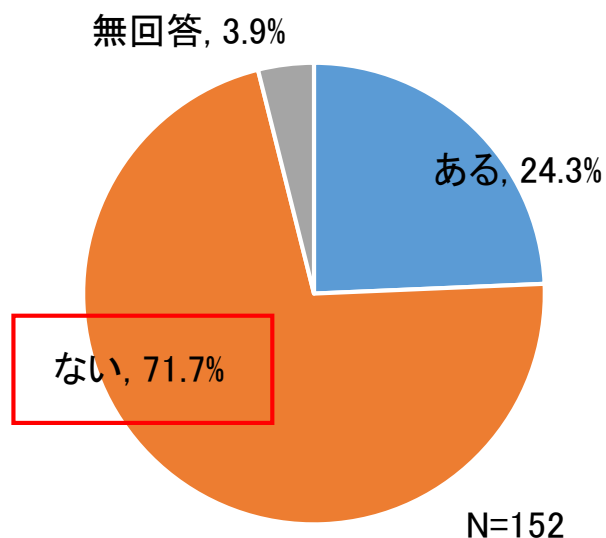
【中学2年生(N=64)】



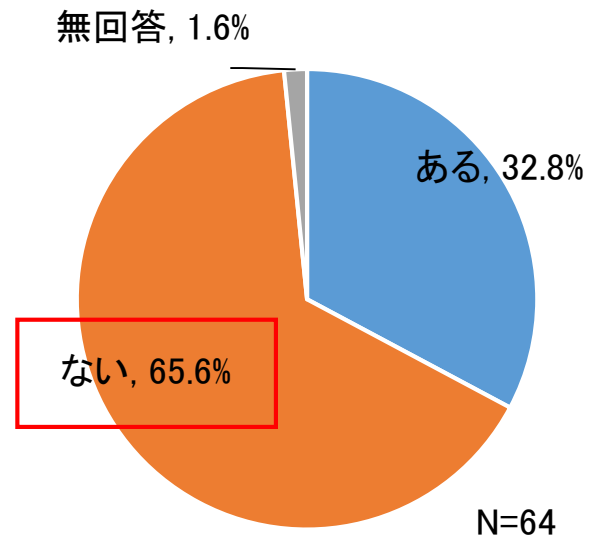
【結果】 ⑫世話についての相談の有無

- 世話をしている家族が「いる」と回答した児童生徒に、世話について相談した経験の有無について質問。
- 小学5年生、中学2年生で、「ある」が2～3割、「ない」が6～7割となっている。

【小学5年生】



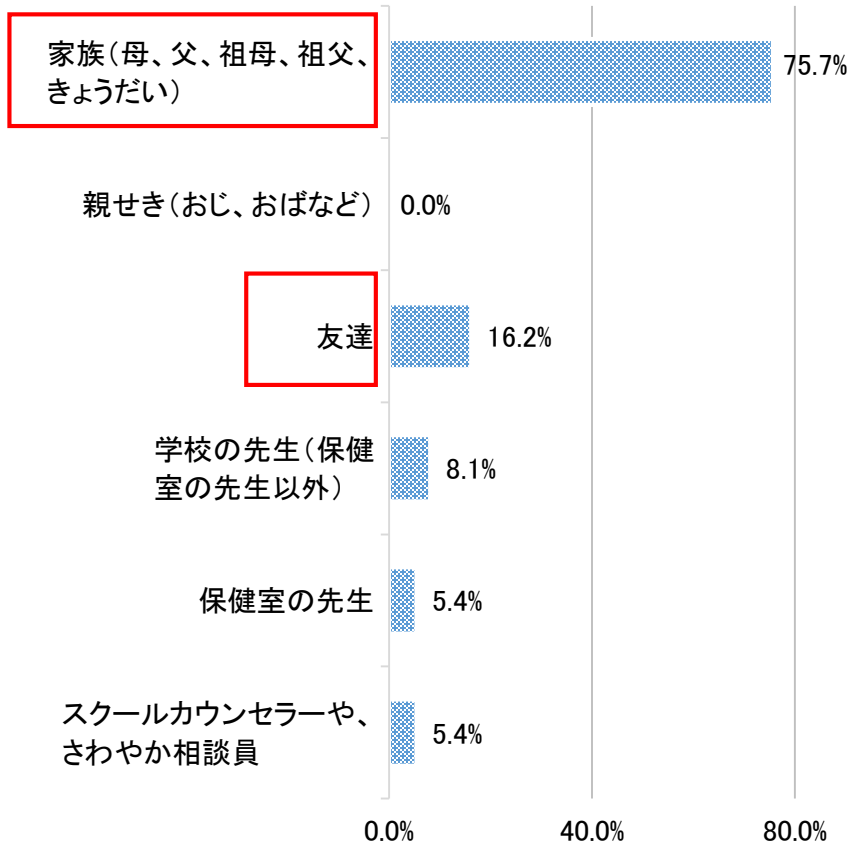
【中学2年生】



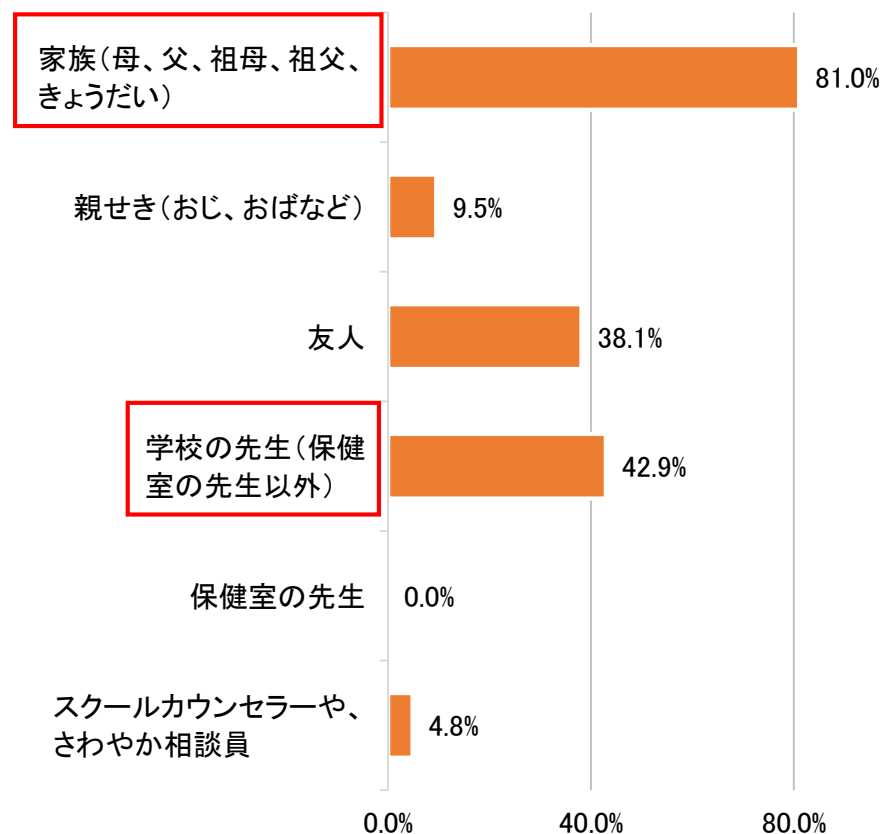
【結果】 ⑬世話についての相談相手

- 世話について相談した経験が「ある」と回答した児童生徒に、相談相手について質問（複数回答）。
- 小学5年生、中学2年生とも「家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）」が最も高く、次いで、小学5年生では「友達」、中学2年生では「学校の先生（保健室の先生以外）」が高くなっている。

【小学5年生 (N=37)】



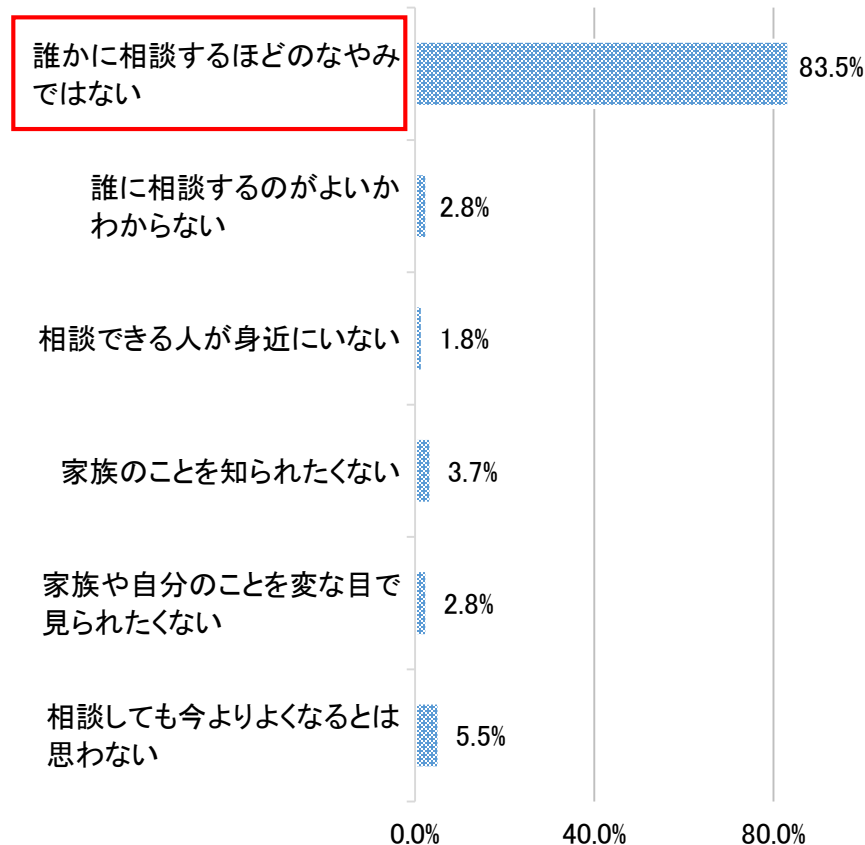
【中学2年生 (N=21)】



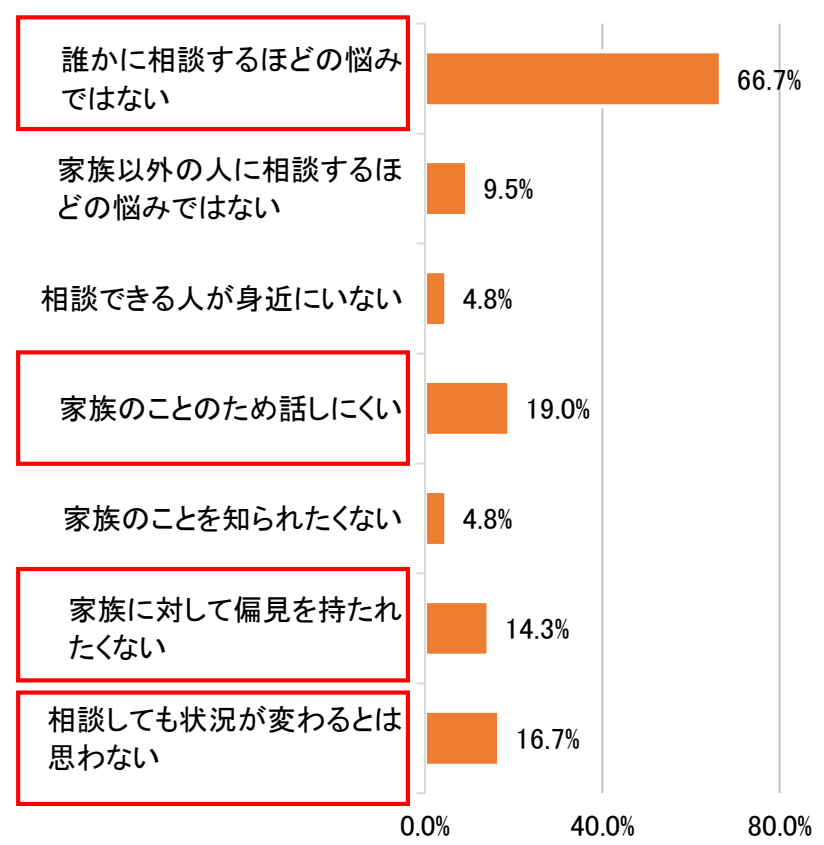
【結果】 ⑭世話について相談しない理由

- 世話について相談した経験が「ない」と回答した児童生徒に、その理由について質問(複数回答)。
- 小学5年生、中学2年生とも「誰かに相談するほどの悩みではない」が最も高くなっている。また、中学2年生では、「家族のここのため話しにくい」、「相談しても状況が変わるとは思わない」、「家族に対して偏見を持たれたくない」などの割合が高くなっている。

【小学5年生 (N=109)】



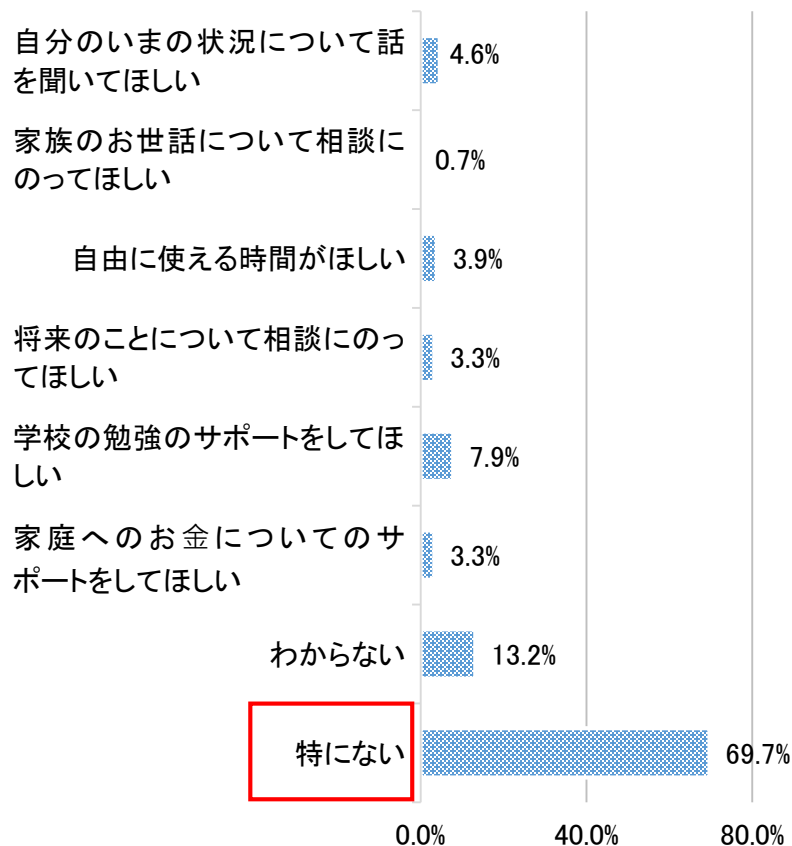
【中学2年生 (N=42)】



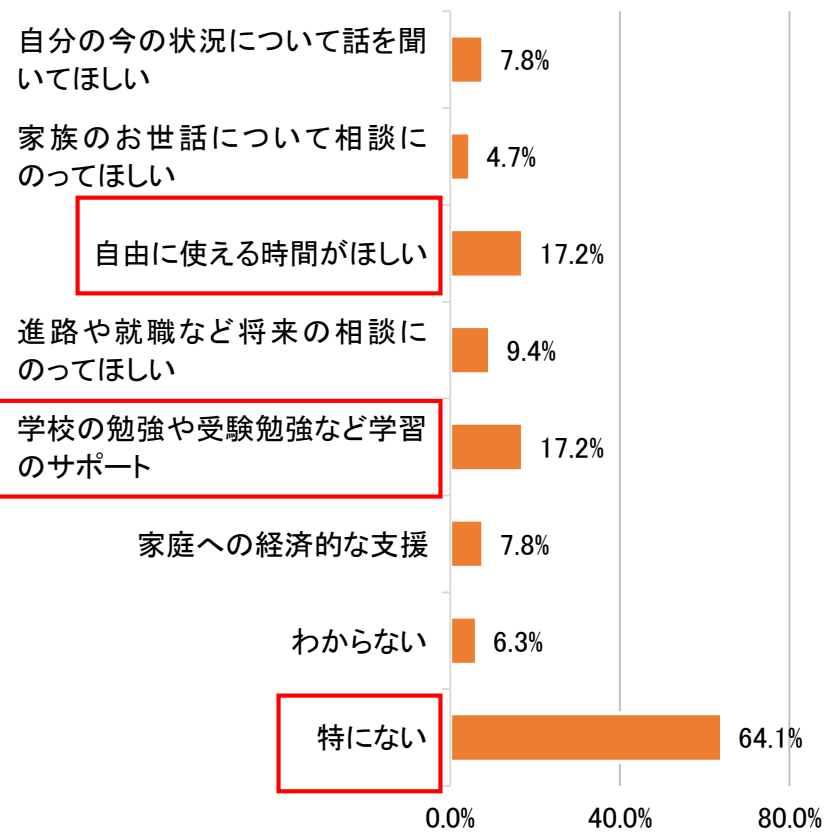
【結果】 ⑮ 助けてほしいこと、必要な支援

- 世話をしている家族が「いる」と回答した児童生徒に、学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援について質問（複数回答）。
- 小学5年生、中学2年生とも「特にない」が6割以上となっており、次いで、中学2年生では、「自由に使える時間がほしい」、「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」が高くなっている。

【小学5年生 (N=152)】



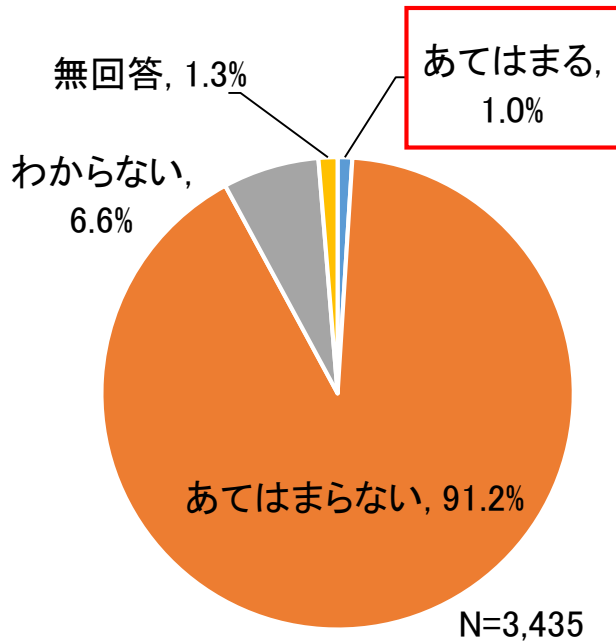
【中学2年生 (N=64)】



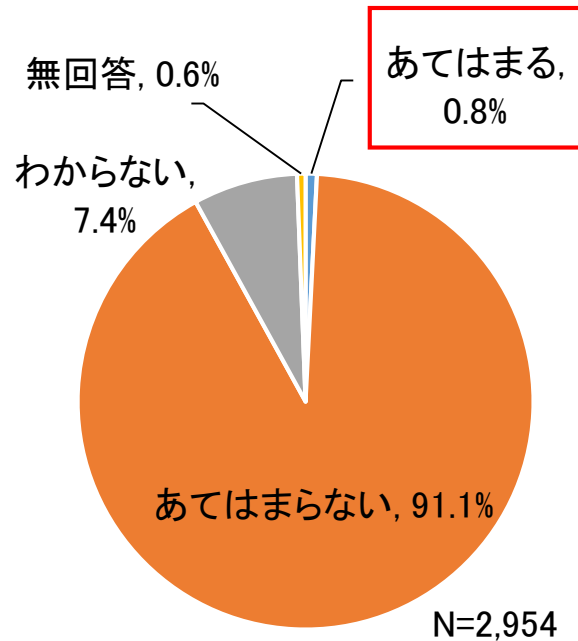
【結果】 ⑩ ヤングケアラーにあてはまると思うか

- 小学5年生、中学2年生、高校2年生に対し、自分がヤングケアラーにあてはまると思うかについて質問。
- 小学5年生では「あてはまる」が1.0%、中学2年生では0.8%、高校2年生では1.2%となっている。

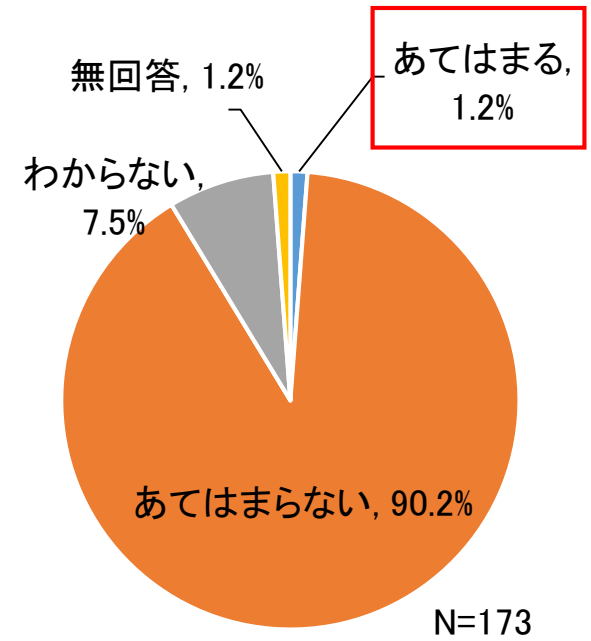
【小学5年生】



【中学2年生】



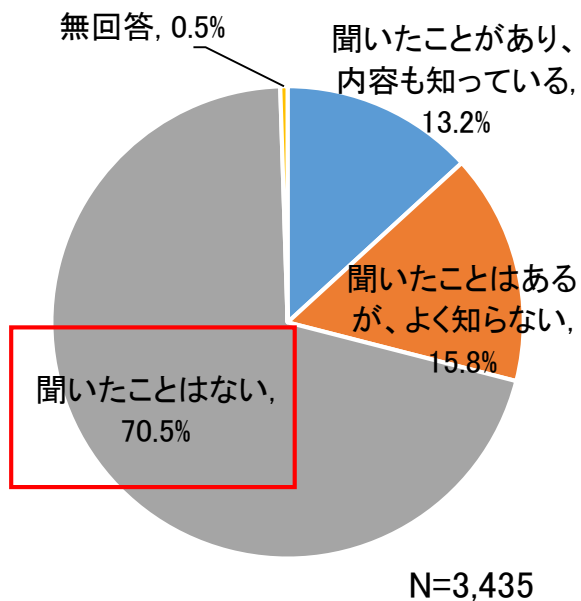
【高校2年生】



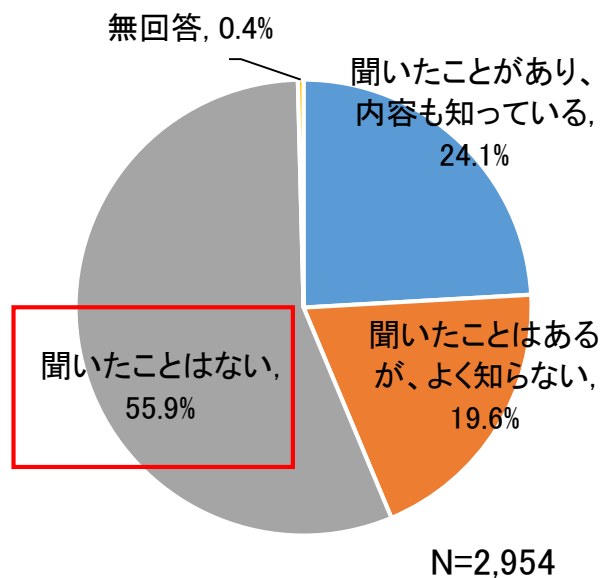
【結果】 ⑰ ヤングケアラーの認知度

- 小学5年生、中学2年生、高校2年生に対し、ヤングケアラーの認知度について質問。
- ヤングケアラーの認知度については、「聞いたことはない」が小学5年生で約7割、中学2年生と高校2年生では5割強を占めている。

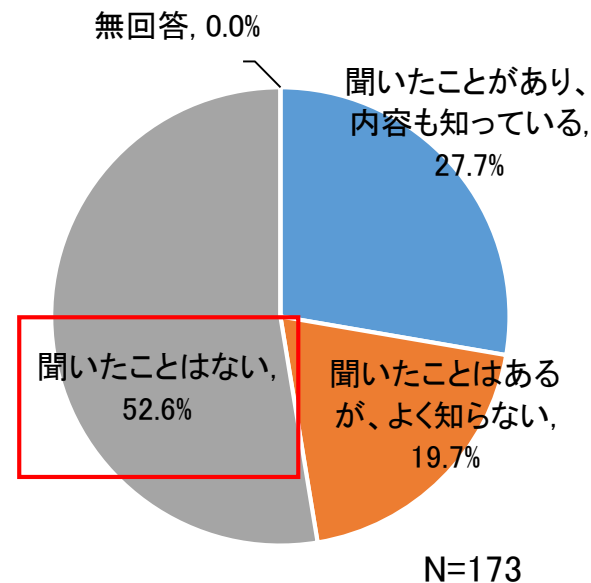
【小学5年生】



【中学2年生】



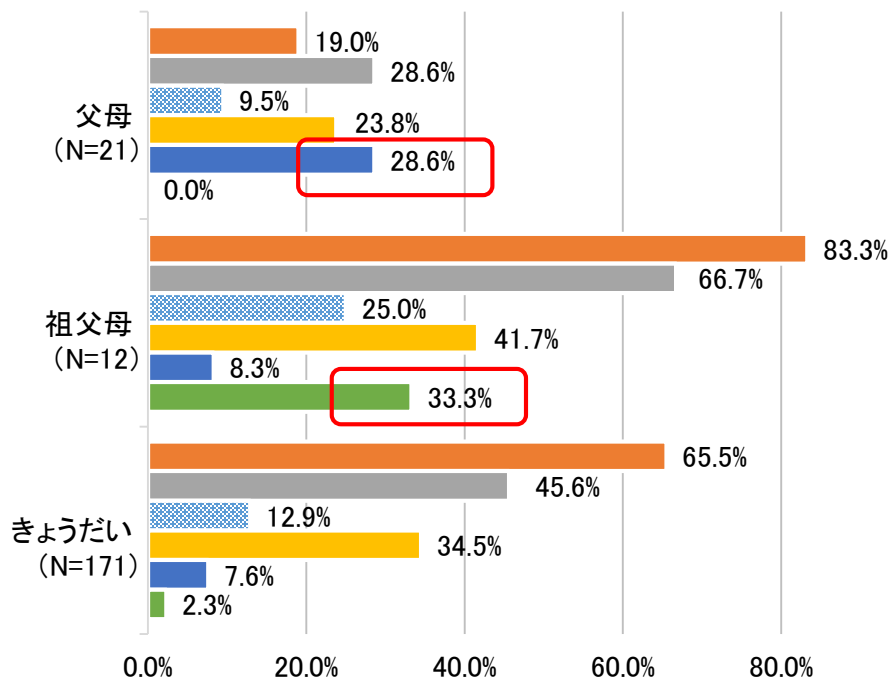
【高校2年生】



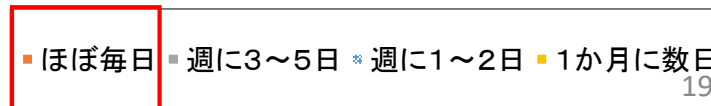
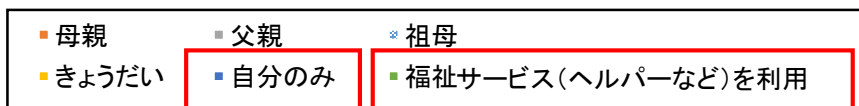
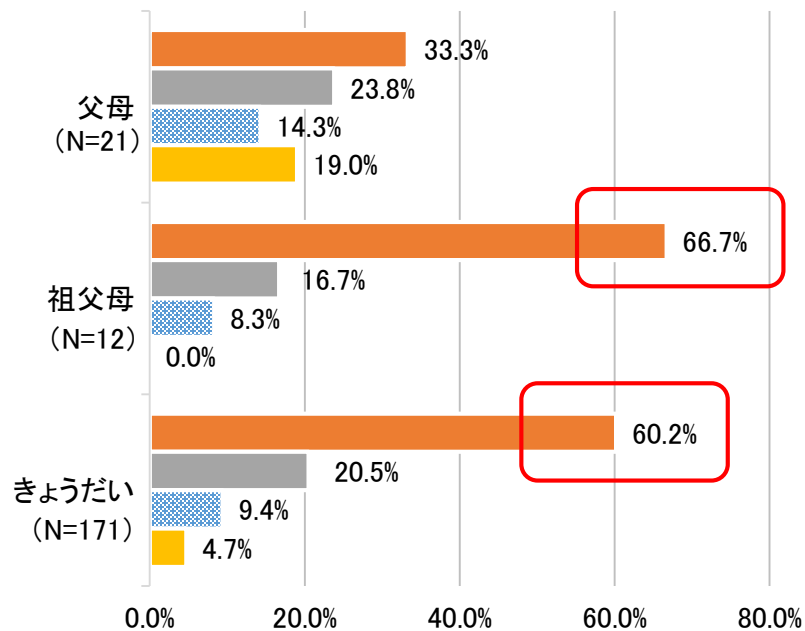
【詳細分析】 ①世話を必要としている家族ごとの傾向

- 世話を一緒にしている人については、対象が父母の場合、「自分のみ」の割合が他と比べて高くなっている。また、対象が祖父母の場合、「母親」、「父親」、「きょうだい」などの家族に加え、「福祉サービス(ヘルパーなど)を利用」の割合が高くなっている。
- 世話をしている頻度については、対象が祖父母、きょうだいの場合、父母の場合と比べて「ほぼ毎日」の割合が高くなっている。

「世話を必要としている家族」
×「世話を一緒にしている人」



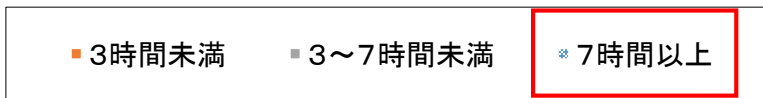
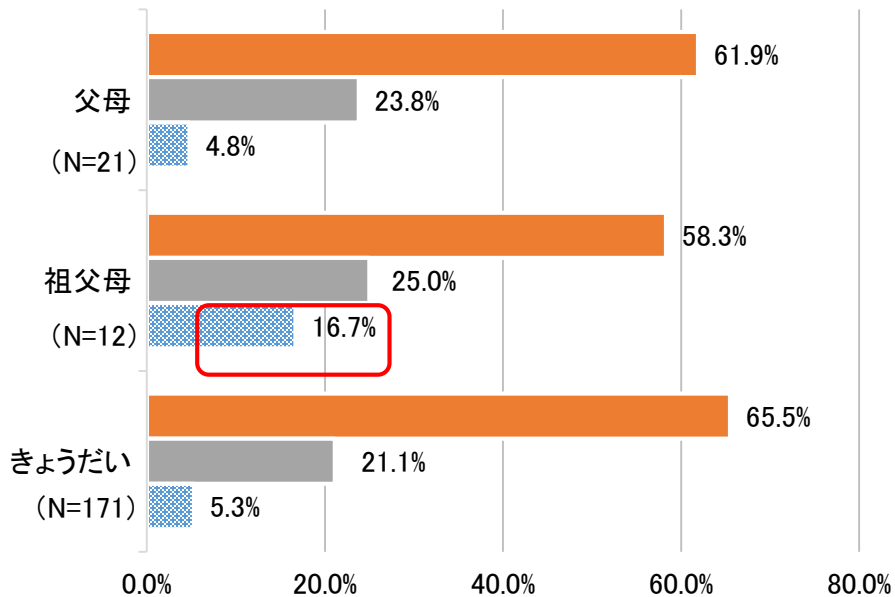
「世話を必要としている家族」
×「世話をしている頻度」



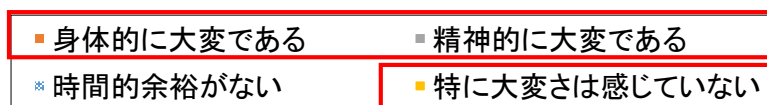
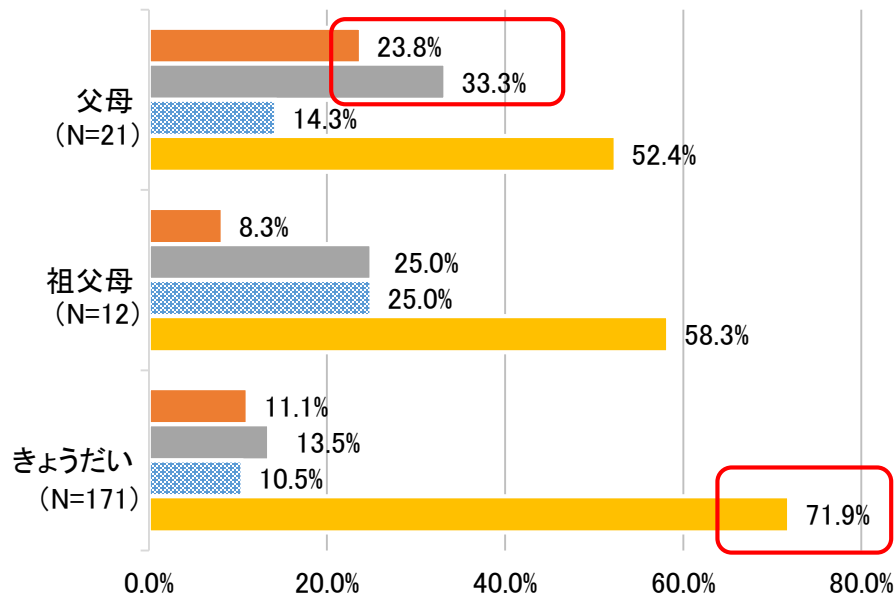
【詳細分析】 ①世話を必要としている家族ごとの傾向

- 平日1日あたりの世話に費やす時間については、対象が祖父母の場合、父母やきょうだいの場合と比べて、「7時間以上」の割合が高くなっている。
- 世話をすることに感じている大変さについては、対象がきょうだいの場合、父母や祖父母の場合と比べて「特に大変さは感じていない」の割合が高くなっている。また、対象が父母の場合、「身体的に大変である」、「精神的に大変である」の割合が他に比べ高くなっている。

「世話を必要としている家族」
×「平日1日あたりの世話に費やす時間」



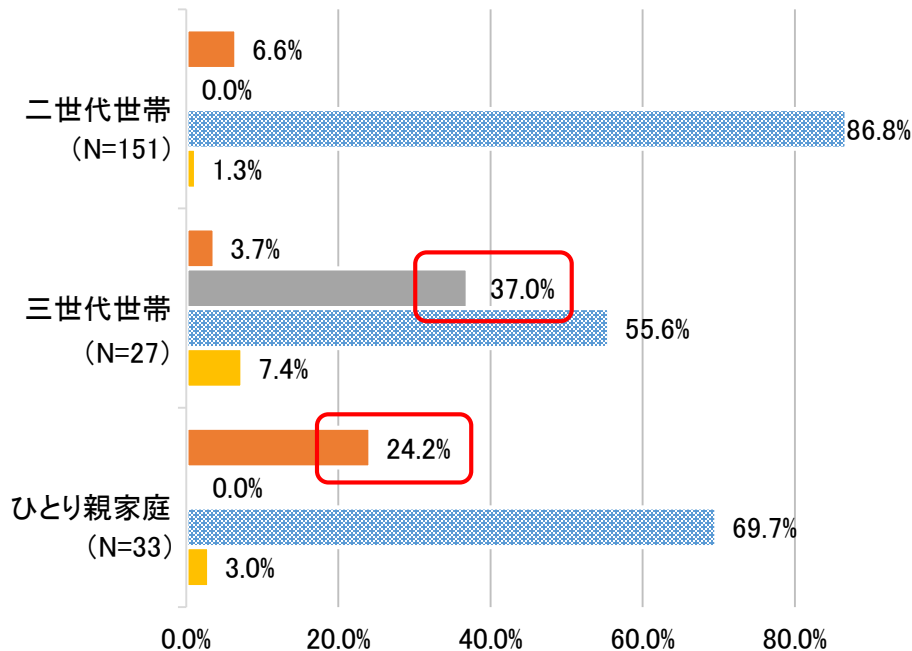
「世話を必要としている家族」
×「世話をすることに感じている大変さ」



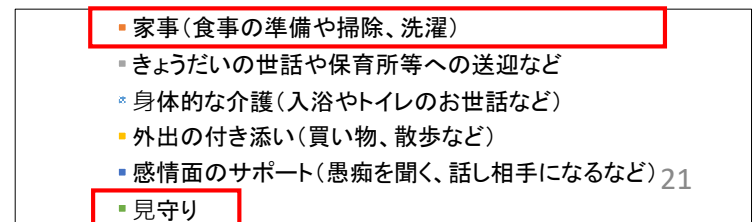
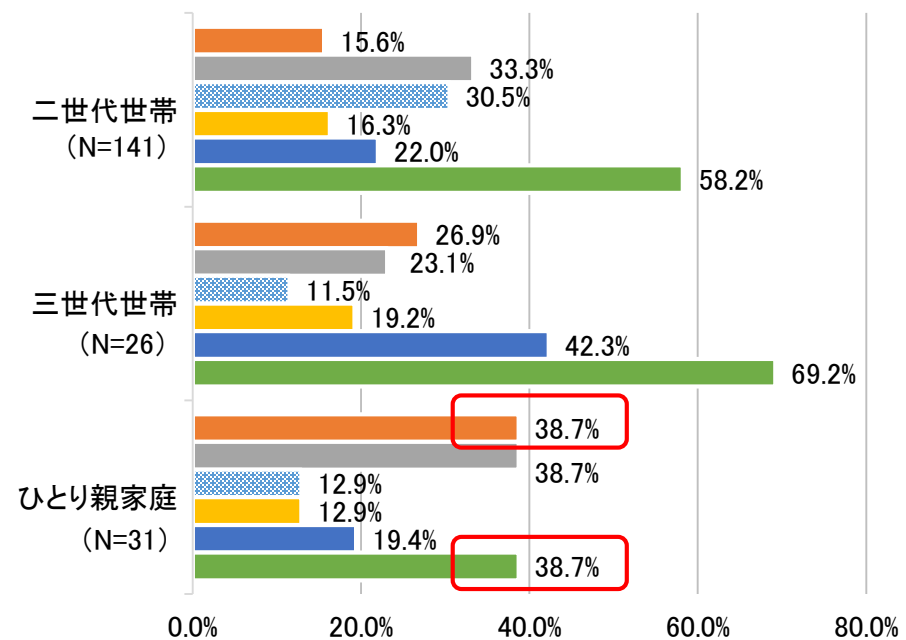
【詳細分析】 ②家族構成ごとの傾向

- ひとり親家庭では「父母」の世話をしている割合が、三世代世帯では「祖父母」の世話をしている割合が、他の家族構成と比較して高くなっている。
- ひとり親家庭における世話の内容については、他の家族構成で高くなっている「見守り」が低い一方で、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」の割合が高くなっている。

「家族構成」×「世話を必要としている家族」



「家族構成」×「世話の内容」

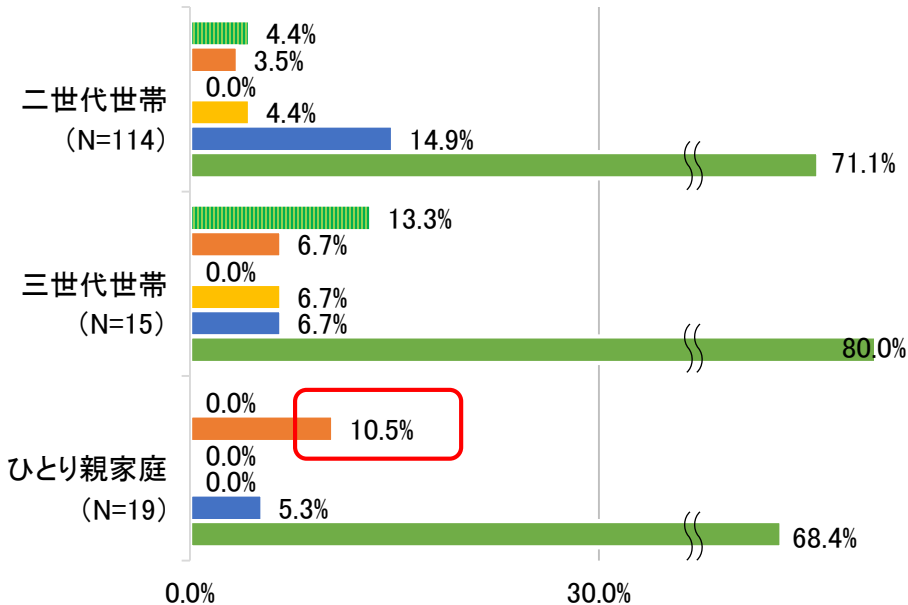


【詳細分析】 ②家族構成ごとの傾向

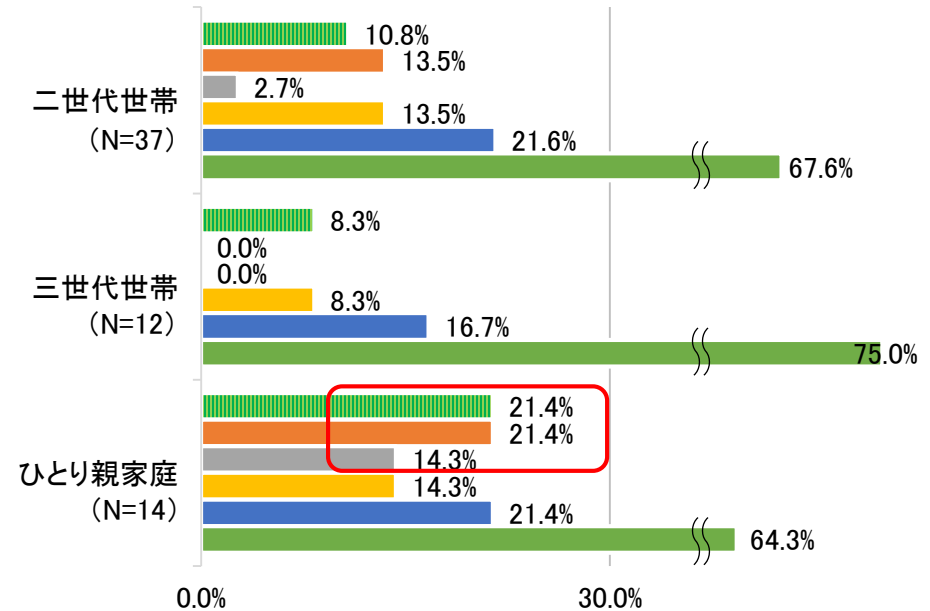
○ ひとり親家庭では、小学5年生と中学2年生で「友人(友達)と遊ぶことができない」の割合が他の家族構成に比べてやや高く、中学2年生では加えて、「宿題をする時間や勉強する時間が取れない」、「部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった」の割合が高くなっている。

「家族構成」×「世話をしているために、やりたいけれどできていないこと」

【小学5年生】



【中学2年生、高校2年生】



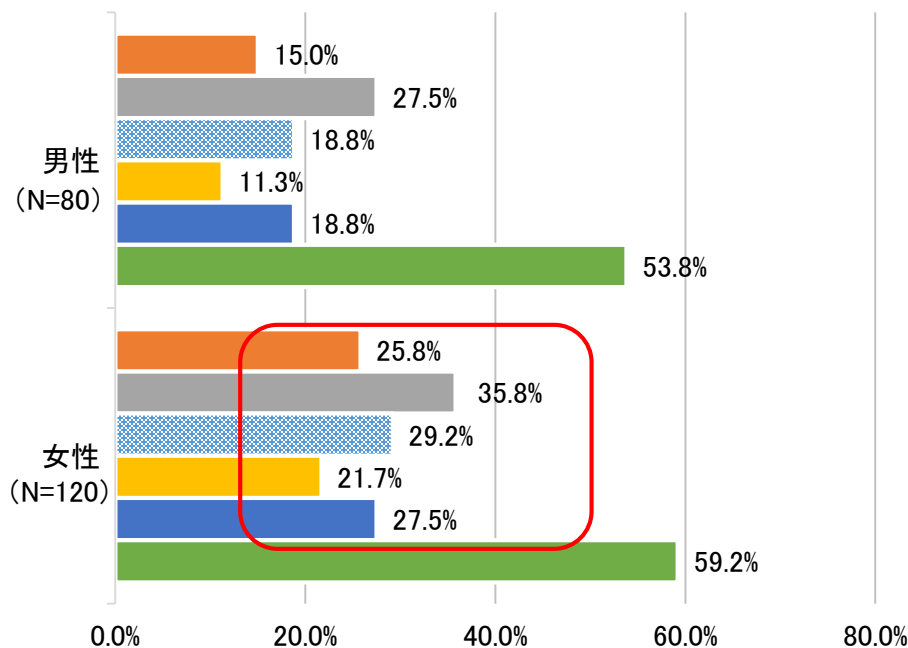
- 宿題をする時間や勉強する時間が取れない
- 友達と遊ぶことができない
- 課外活動、じゅく・習い事ができない、またはやめなければならなかった
- ねる時間が十分に取れない
- 自分の時間が取れない
- 特にない

- 宿題をする時間や勉強する時間が取れない
- 友人と遊ぶことができない
- 部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった
- 睡眠が十分に取れない
- 自分の時間が取れない
- 特にない

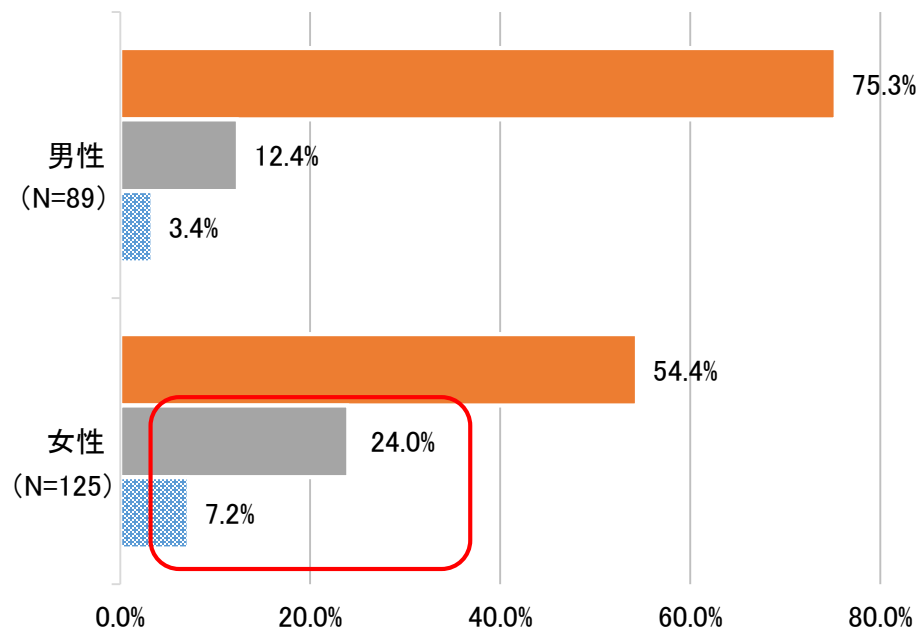
【詳細分析】 ③性別による違い

- 女性は、世話の内容として複数の役割を担っている場合が多く、男性に比べて、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」をはじめ、ほとんどすべての項目の割合が高くなっている。
- 世話に費やす時間は、男性に比べて女性で長い傾向が見られる。

「性別」×「世話の内容」



「性別」×「平日1日あたりの世話に費やす時間」



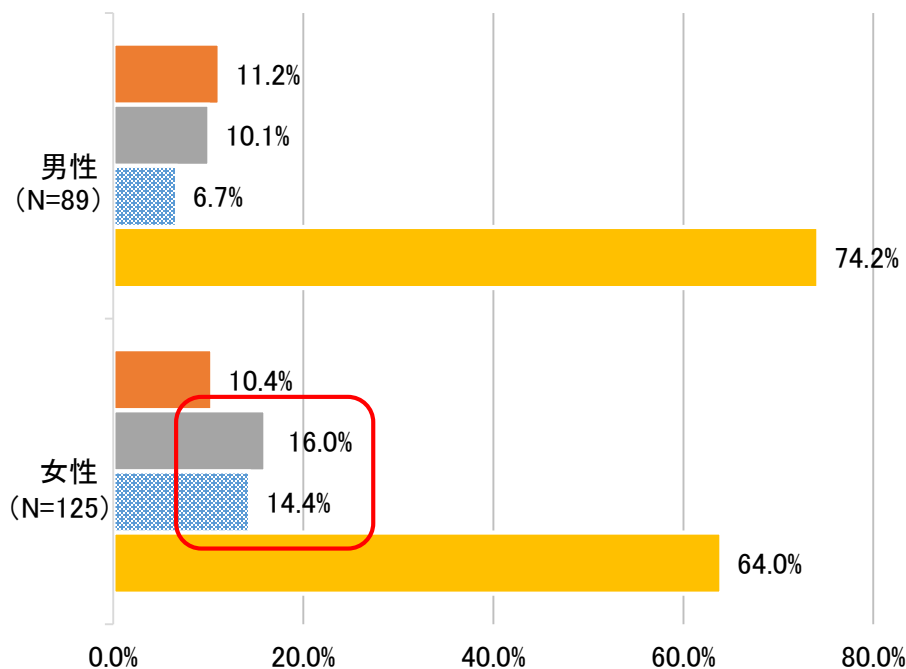
- 家事(食事の準備や掃除、洗濯)
- きょうだいの世話や保育所等への送迎など
- ※ 身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)
- 外出の付き添い(買い物、散歩など)
- 感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)
- 見守り

- 3時間未満
- 3～7時間未満
- ※ 7時間以上

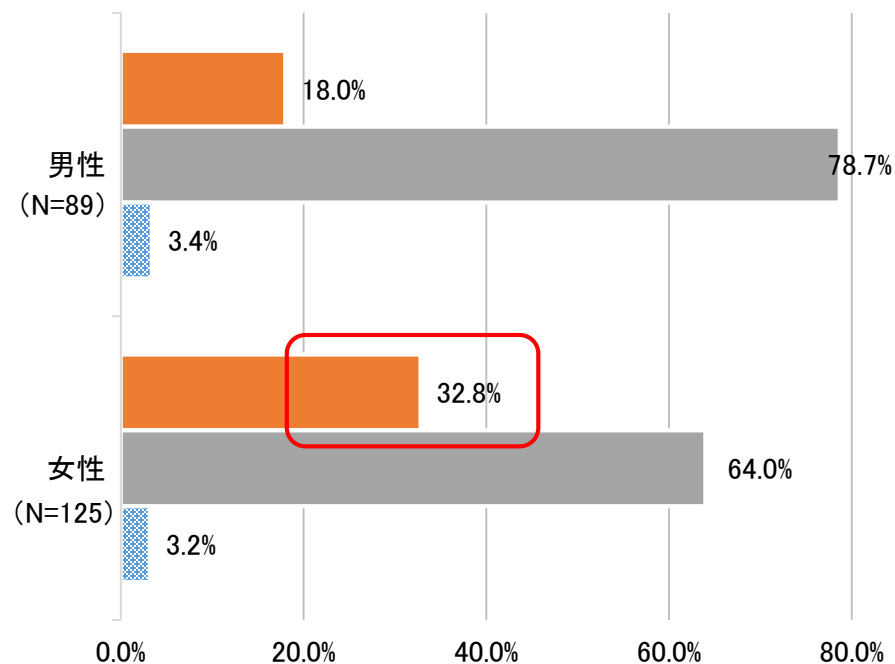
【詳細分析】 ③性別による違い

- 世話をすることを感じている大変さについては、女性は男性に比べて、「精神的に大変である」、「時間的余裕がない」の割合が高くなっている。
- 世話について相談した経験の有無では、女性は男性に比べて「ある」の割合が高くなっている。

「性別」×「世話をすることを感じている大変さ」



「性別」×「世話について相談した経験」



■ 身体的に大変である
■ 精神的に大変である
※ 時間的余裕がない
■ 特に大変さは感じていない

■ ある
■ ない
※ 無回答

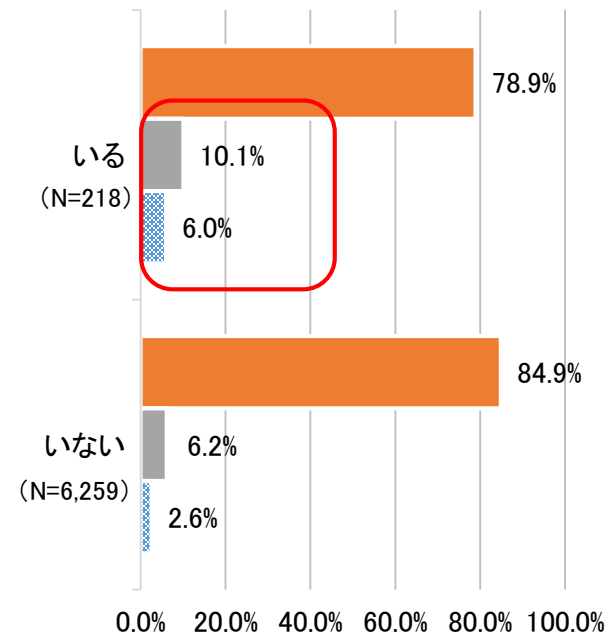
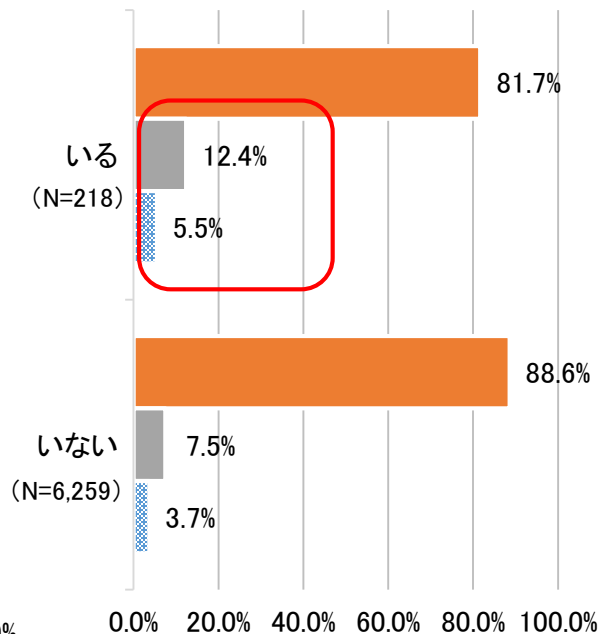
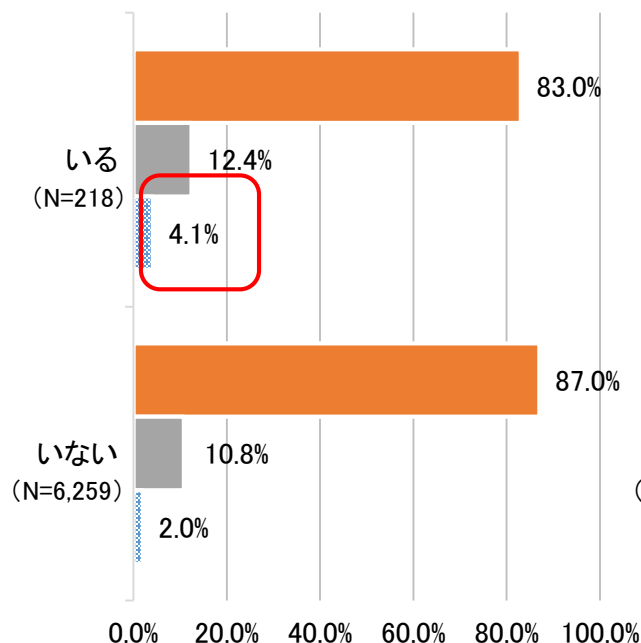
【詳細分析】 ④家族の世話をしていることによる影響

○ 世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、健康状態が「よくない・あまりよくない」、出席状況が「たまに欠席する」、「よく欠席する」、遅刻や早退が「たまにする」、「よくする」と回答した児童生徒の割合が高くなっている。

「世話をしている家族の有無」
×「健康状態」

「世話をしている家族の有無」
×「出席状況」

「世話をしている家族の有無」
×「遅刻や早退の状況」



■ よい・まあよい
■ ふつう
■ *よくない・あまりよくない

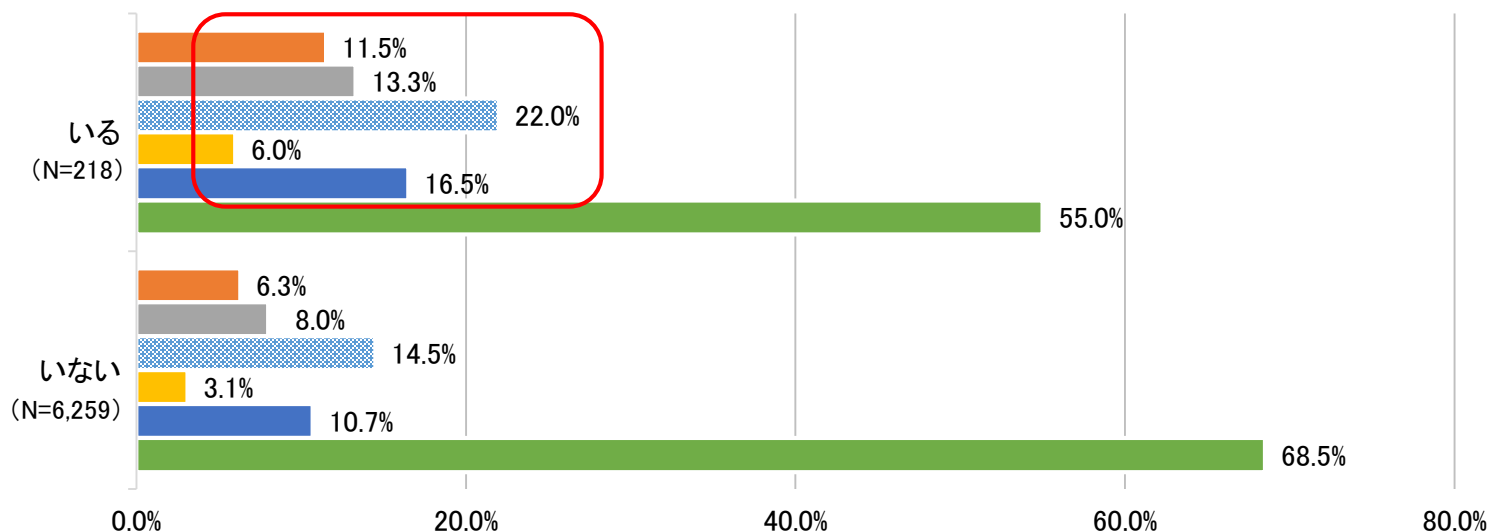
■ ほとんど欠席しない
■ たまに欠席する
■ *よく欠席する

■ ほとんどしない
■ たまにする
■ *よくする

【詳細分析】 ④家族の世話をしていることによる影響

○ 家族の世話をしている場合、学校生活において「持ち物の忘れ物が多い」、「提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い」、「宿題や課題ができていないことが多い」、「授業中に居眠りすることが多い」などの割合が高くなっている。

「世話をしている家族の有無」×「ふだんの学校生活等であてはまること」

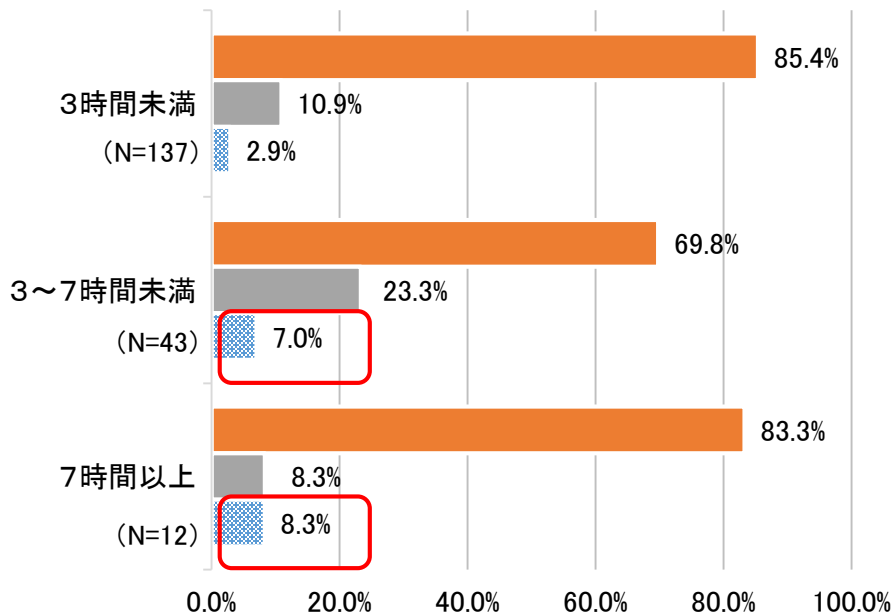


- 授業中に居眠りすることが多い
- 宿題や課題ができていないことが多い
- ※ 持ち物の忘れ物が多い
- 部活動や習い事を休むことが多い
- 提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い
- あてはまるものはない

【詳細分析】 ⑤世話の時間の長さが及ぼす影響

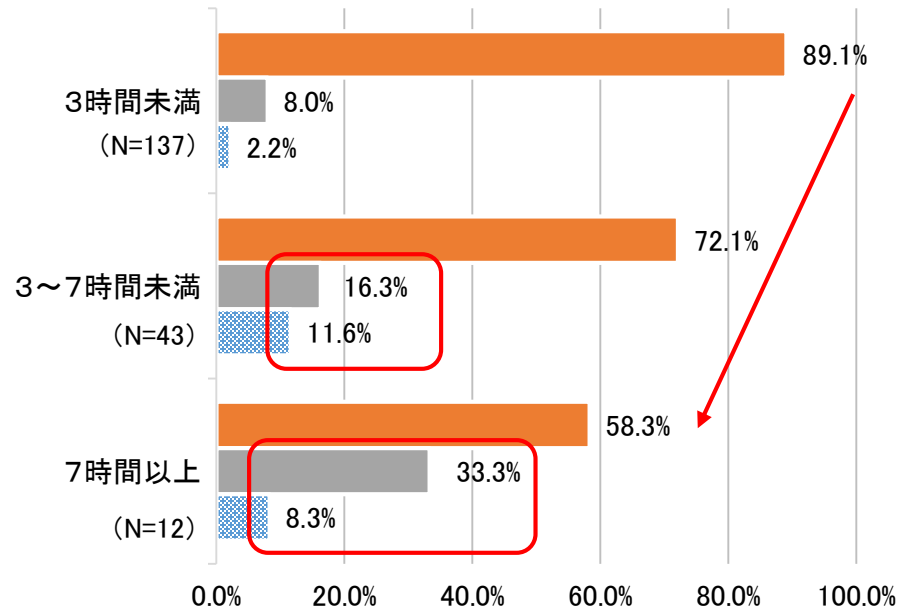
- 健康状態については、世話に費やす時間が3時間以上である場合、3時間未満の場合と比べて、「よくない・あまりよくない」の割合が高くなっている。
- 出席状況については、世話に費やす時間が長いほど、「ほとんど欠席しない」の割合が低くなっており、3時間以上の場合、3時間未満の場合と比べて、「たまに欠席する」、「よく欠席する」の割合が高い。

「平日1日あたりの世話に費やす時間」
×「健康状態」



■ よい・まあよい
 ■ ふつう
 ■ よくない・あまりよくない

「平日1日あたりの世話に費やす時間」
×「出席状況」

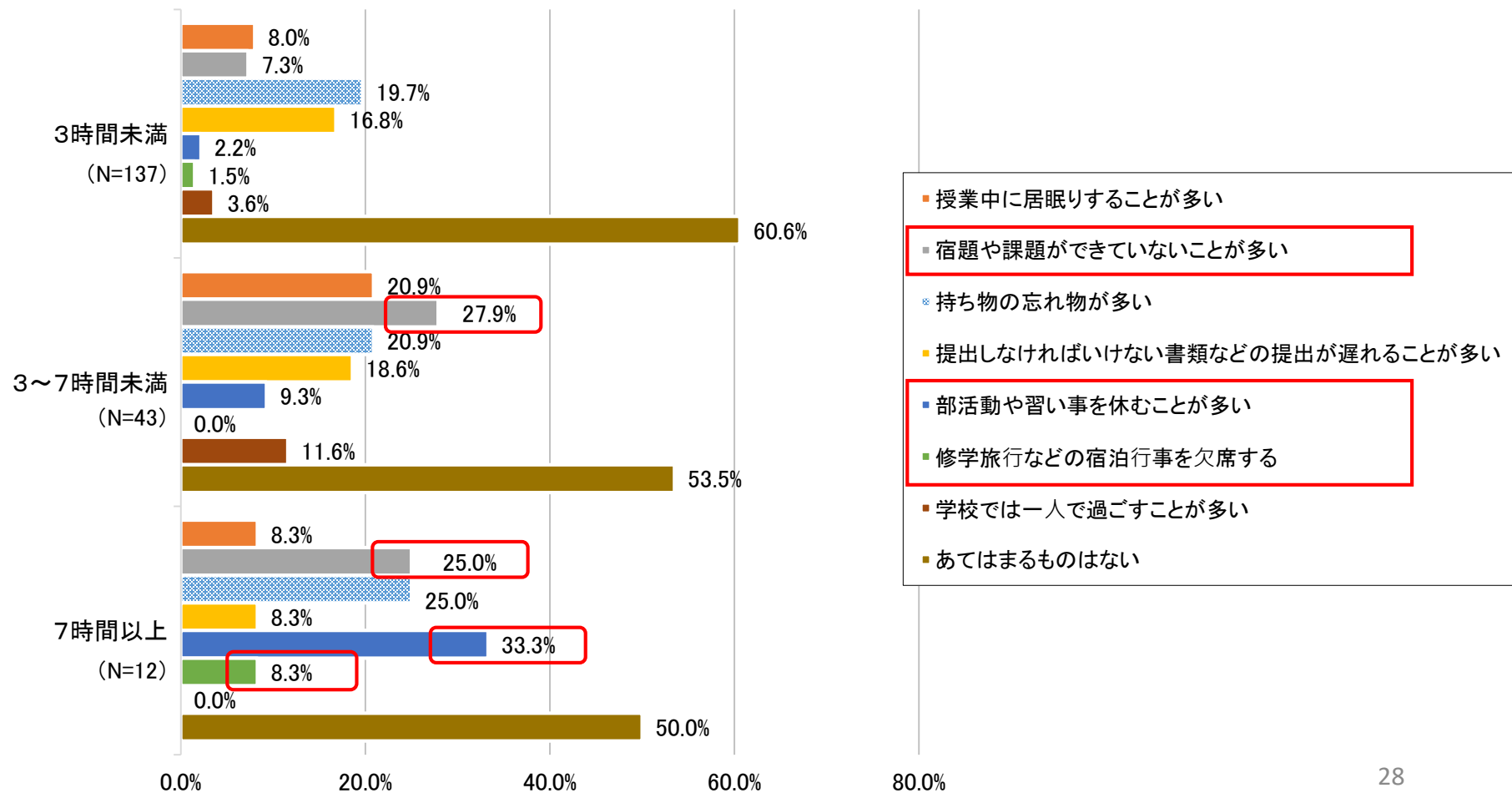


■ ほとんど欠席しない
 ■ たまに欠席する
 ■ よく欠席する

【詳細分析】 ⑤世話の時間の長さが及ぼす影響

○ 平日1日あたりの世話に費やす時間が3時間以上になると、学校生活において「宿題や課題ができていないことが多い」の割合が高くなり、さらに、世話に費やす時間が7時間以上になると、「部活動や習い事を休むことが多い」、「修学旅行などの宿泊行事を欠席する」の割合が高くなっている。

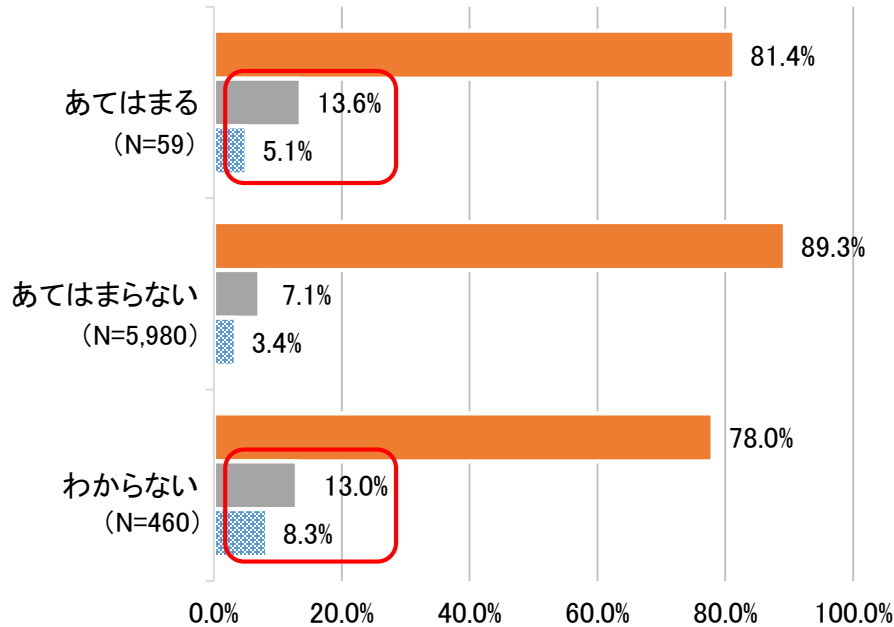
「平日1日あたりの世話に費やす時間」×「ふだんの学校生活等であてはまること」



【詳細分析】 ⑥家族の世話の有無とヤングケアラーの自己認識

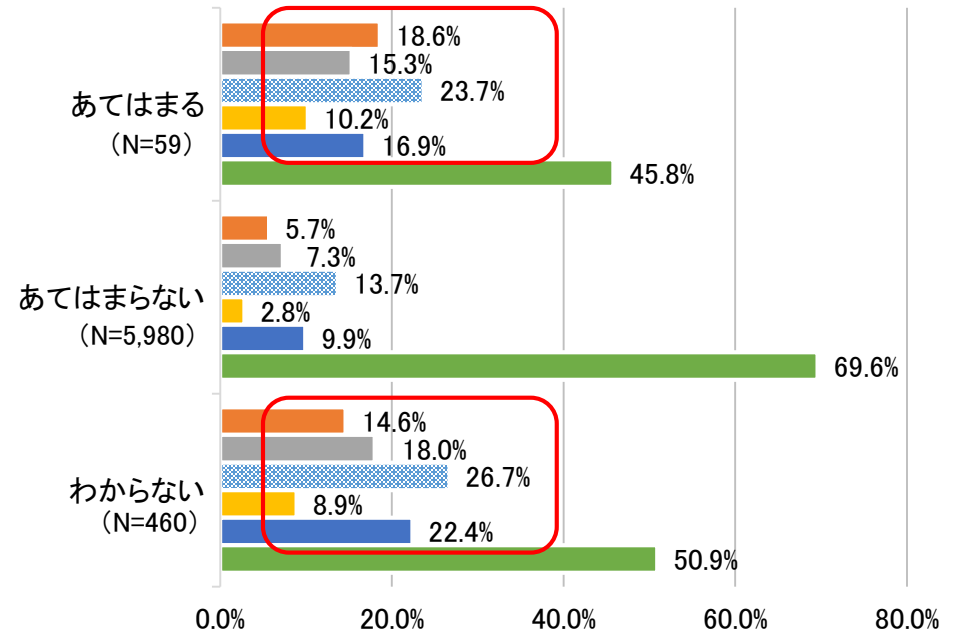
○ 自身がヤングケアラーにあてはまるか「わからない」と回答した場合の健康状態、出席状況、遅刻や早退の状況、ふだんの学校生活等であてはまること、などをみていくと、自分がヤングケアラーに「あてはまる」と回答した場合とよく似た傾向を示している。

「ヤングケアラーの自己認識」×「出席状況」



- ほとんど欠席しない
- たまに欠席する
- ※ よく欠席する

「ヤングケアラーの自己認識」×「ふだんの学校生活等であてはまること」

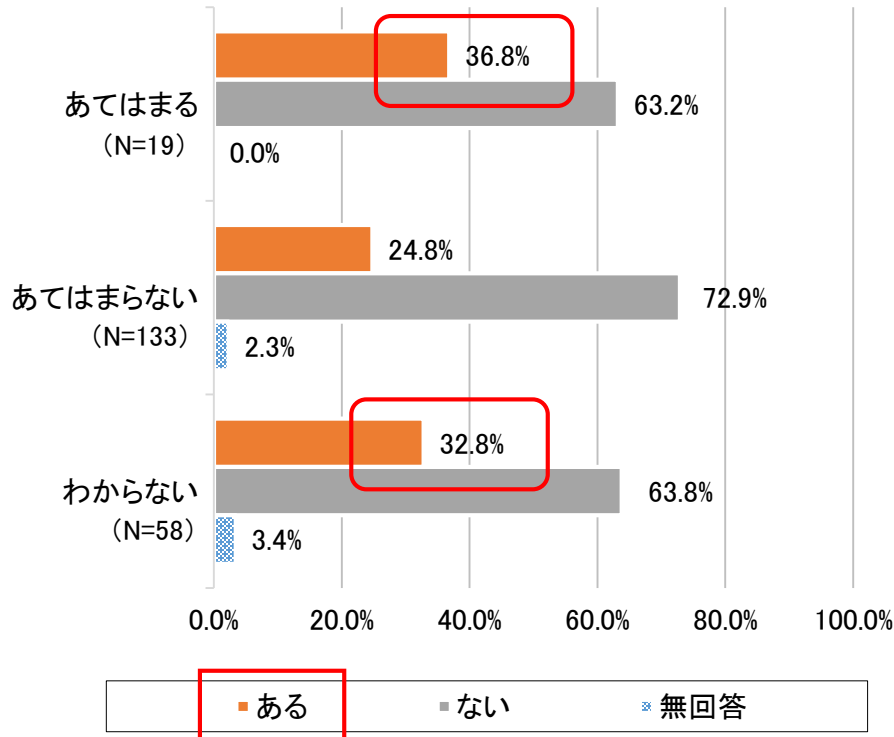


- 授業中に居眠りすることが多い
- 宿題や課題ができていないことが多い
- ※ 持ち物の忘れ物が多い
- 部活動や習い事を休むことが多い
- 提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い
- あてはまるものはない

【詳細分析】 ⑥家族の世話の有無とヤングケアラーの自己認識

- 相談の状況については、「あてはまる」、「わからない」と回答した場合には、「あてはまらない」と回答した場合と比べて、相談した経験が「ある」割合が高くなっている。
- 相談した経験が「ない」と回答した場合の、世話の悩みについて聞いてくれる人の有無について、ヤングケアラーかどうかに対して「あてはまる」、「わからない」と回答した場合は、「あてはまらない」と回答した場合に比べ、世話について話を聞いてくれる人が「いない」割合が高くなっている。

「ヤングケアラーの自己認識」
×「世話に関する相談経験の有無」



「ヤングケアラーの自己認識」
×「世話について話を聞いてくれる人の有無」

